

URBANGAUSS

Architecture

In & Out Scape, Product Design

1981-2019

池上俊郎 Toshiroh IKEGAMI

池上俊郎

URBANGAUSS研究所 代表取締役 建築家

npo ECO-DESIGN NETWORK 理事長

大阪グリーン購入ネットワーク 理事長

京都市立芸術大学 名誉教授

関西学院大学総合政策学部都市政策学科 元教授

大阪市中央区淡路町4-3-1 FOBOS4F 〒541-0047

Toshiroh IKEGAMI

architect / URBANGAUSS

chairman / npo ECO-DESIGN NETWORK

chairman / Osaka Green Purchasing NetWork

professor emeritus / Kyoto City University of Arts

former professor / Kwansei Gakuin University

www.urbangauss.com office@urbangauss.com

FOBOS 4F 4-3-1 Awajimachi Chuo-ku Osaka JAPAN zip 541-0047

architecture designs

AFTER
19950117
EARTH QUAKE
KOBE



19950117
EARTH QUAKE
KOBE



東町・江戸町ビル

HIGASHIMACHI EDOMACHI BLDG

CITY SCREEN XXXV

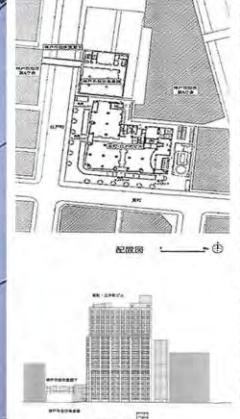
(1999 CHUOKU KOBE)

1995年の阪神大震災により、神戸市旧居留地区において倒壊した100戸の集合住宅と事務所の複合施設の再建計画である。計画地が持つ歴史的環境に配慮した都市景観の形成を目標とした。空地の整備の促進、歩行者空間の確保に寄与する建築計画を行った。旧居留地区のイメージの継承と拡大、大地から立ち上り大地と共に存する意志の表明、良好な都市生活の場を生み出すこと、21世紀への視座を持たせること、を主な内容としている。延床面積が20000m²、地下1階地上18階であり、プレキャストコンクリート構造をとっている。



東町・江戸町ビルを中心とした街区形成

THE HIGASHIMACHI-EDOMACHI BUILDING AND SURROUNDING COMMUNITY
(1999 CHUOKU KOBE)

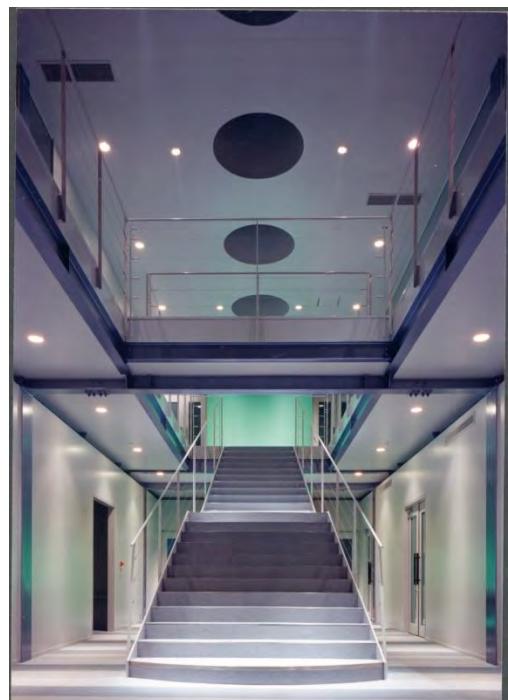
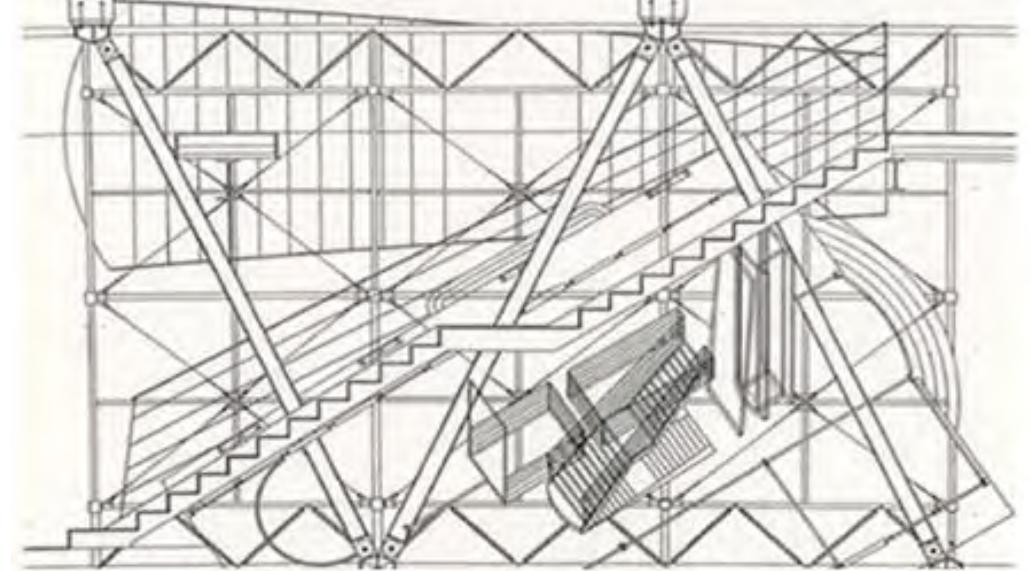


この計画は、阪神淡路大震災を契機として始まった。神戸市旧居留地区での、東町・江戸町ビルの倒壊とその再建。東町ビル・江戸町ビル再建の人々は、震災によって失われた空間の再構築を、自身の生活空間にこどらざず、旧居留地の都市像の復活として捉え、その結果『都市編集』は神戸市第4庁舎跡下の建設および神戸市車庫棟の改築へと広がっていった。旧居留地に内在していた、住み・働く場所としての地域景観の営行きあれる形成を震災復興の過程で再度削除したいという、地域居住者・利用者の願いの実現に向けて、関係者の真剣な共闘作業が積み重ねられた。東町・江戸町ビルは、タイル素材のグラデーション・角度のすらされた門型フレーム・テラス形状の上下階の差異等により、18階建てのスクール感の減少を試みた。8mセットバックしたペーブメントに水平方向の広がりを持たせケヤキとともに躍動感の演出を試みた。渡り廊下下部にはアーチをつけ町に対する圧迫感の減少を試み、同時に内部を歩くことの楽しさを試めた。車庫棟は横方向色のストライプにより、南北方向の延伸性を強調した。これら個々の建築の構築を通して、神戸市三宮旧居留地区にヒューマンスクールな街並みの演出を試み、また周囲の既存の建物も巻き込み、地区全体としての楽しさを感じられるように配慮した。

Page Factory



宮崎県に竣工した、印刷会社の編集のためのコンピュータセンターである。晴れ、雨、降灰と、天候の変化の大きな土地であるため、建物は快適な環境をつくり出すための大きな屋根を持つ。無機質な素材であるH鋼の形態的操作を通じて、地域環境のインフラストラクチャーとも言える形式を内包させようとした。角度を持ったブレースは田園風景を強調し、約30km離れた霧島連邦と呼応する。地域環境が地域景観に転換することを期待した。

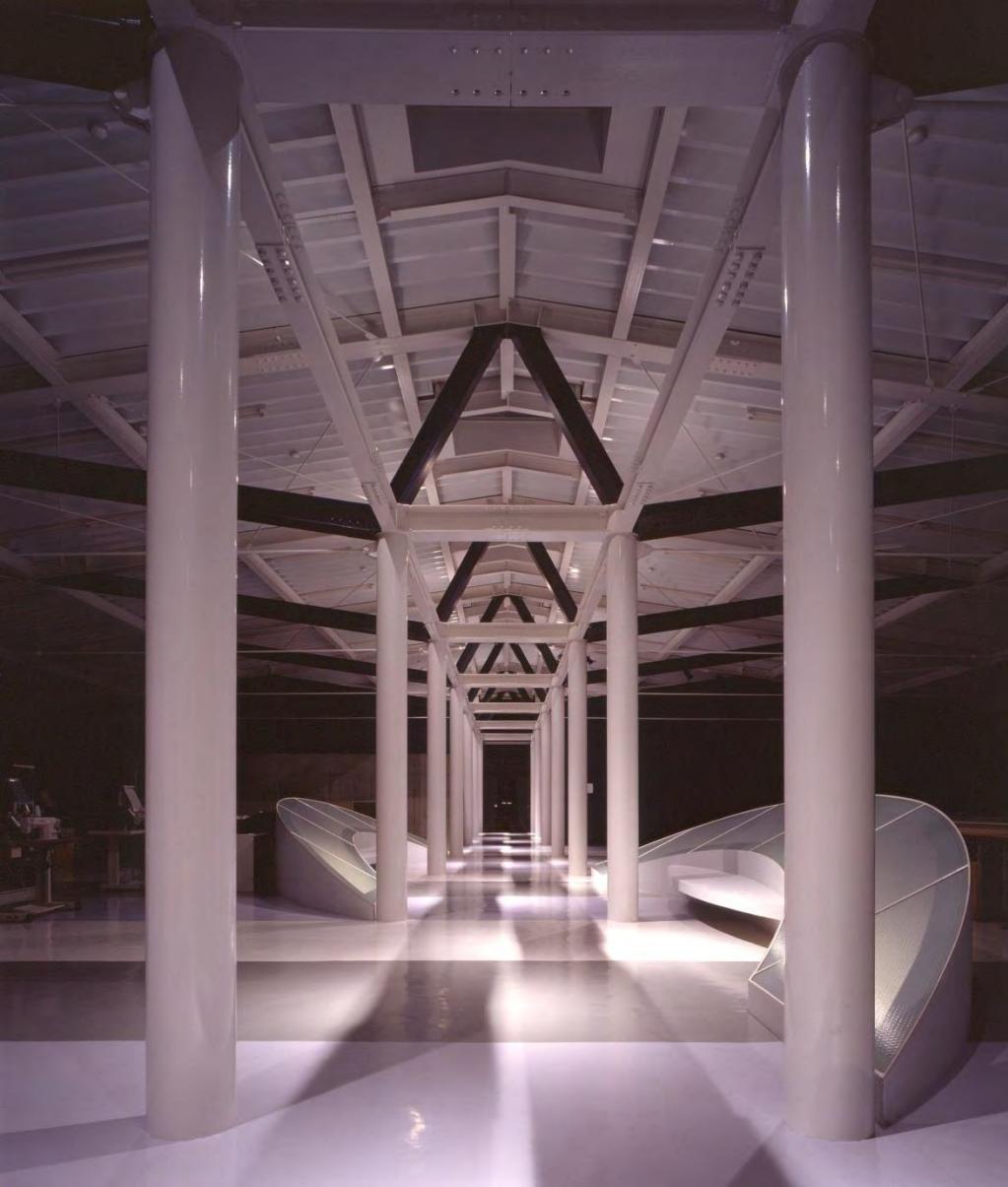




プライダルメーカー「アルファブランカ」の複合施設である。X形のユニットは、屋外空間ではH鋼のフライングバットレスをもつオーバーハングした壁面を、内部空間では上部に開かれた逆台形の断面を持つ浮遊感のあるスペースを構成する。単純な形式の構造フレームの反復により内外空間の形成を試みたものである。将来はこの第2期施設と同形式の教育施設や文化施設をつくり、地域への貢献を進めていきたい。

Alpha Blanca





Alpha Blanca



メディア バード

MEDIA BIRD
CITY SCREEN XXIV
(1993 CHUOKU OSAKA)

敷地面積 182.43m²
建築面積 146.16m²
延床面積 1,237.87m²
鉄骨造 地上9階

大阪中央区淀屋橋筋に位置する9階建のオフィスビルである。設計に当たっては、この建物が街並み形成への携弁物となるよう意図した。具体的には、①ヒューマンスケールに基づいた歩行感覚の回復、②都市景観の始点としてのスカイラインの復権、③オフィス空間の居住性の重視などを試みた。建物最上階にはスチールフレームを挿入しフレームの各グリッドに、会議や執務作業といった機能をそれぞれ適合させた。また、ガラスを主な素材として、柱、テーブルへと変化させ、全体として仮設的要素を連結したジャイアントファニチャーとした。都市に挿入したアルミニウムのフレームを基調とする建築、そして建築に挿入したブルーベリー色のフレーム。都市・建築・インテリアの関係性を浮遊感をもった入れ子構造として編集しようとした。



シティポール

CITY POLE

(1987 CHUO U OSAKA)

この建物は地元の酒店の建て替えとして計画された。設計にあたって、①狭小な土地を利用して、メインストリートの大規模建築に匹敵する建築とする。②さきやかな私的建築物であるが、都市空間の意味の変換化を図り、



都市空間上の公的 existence とする。③内部においては、廊段を通じた上下方向の回遊をねらうことを提案した。また計画地が、都市のビジネス街にありながら、神社境内のオープンスペースに隣接しているためこのロケーションを生かして斜線制限を感じさせない自立する建築形態を探り、建築の頂部を都市のスカイラインの始点として構成することを考えた。

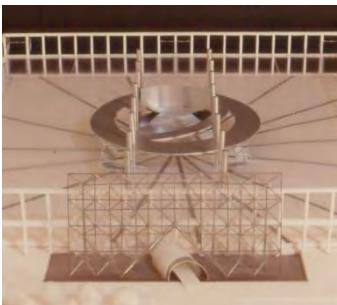
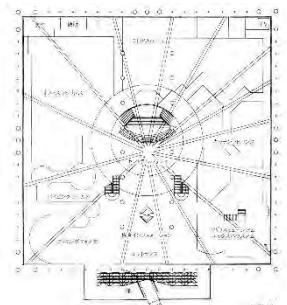


大阪ガス生活誕生館 ディリバ

DILIPA
CITY SCREEN XVI
(1991 SUITA OSAKA)

建築面積 3519.06m²
延床面積 6759.36m²
設計者 地上 3 階

生活誕生館“DILIPA”は、大阪ガスの企業活動の総合的な説明の場である。都市ガスの可能性を示し、家庭生活や都市生活のあり方を消費者との対話を通じて探っている。建物は、既設建物に若干の変更を加えた再利用である。建物外観には、螺旋を用意した。傾斜したスペースフレームで構成された噴水が反射ガラス面上を自然の流のように流れれる。建物には、2Fレベルで円弧状の環境構成エレメントを設けた。本建物の強調化を通じて、近隣環境の良さをコンテキスト形成を探った。内部には、中心部を盛りし、直径18mの吹き抜けと円弧状のデッキを設けた。既存の柱を利用して白い珪群による軸線を設け、シンボリックなホールを大空間に探った。1F床には、放射状パターンが描かれ、求心性と拡散性を示している。またトップライトからの光が、浮遊感を産み、象徴性を強調している。全体としての回遊性を高め、多様な展示の可能性を建築として探った。



宇信相互信用金庫
WOOSHIN BANK
CITY SCREEN XXX
(1997 SEOUL, KOREA)

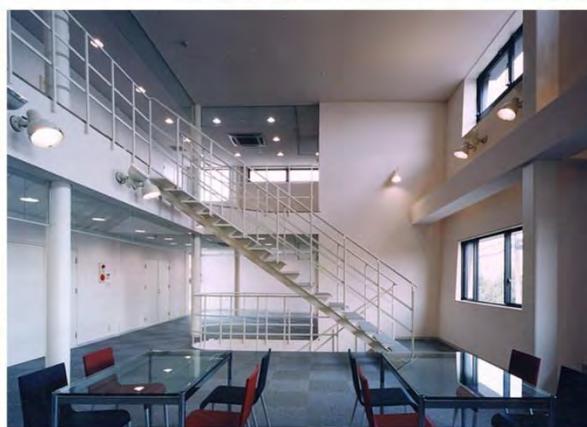
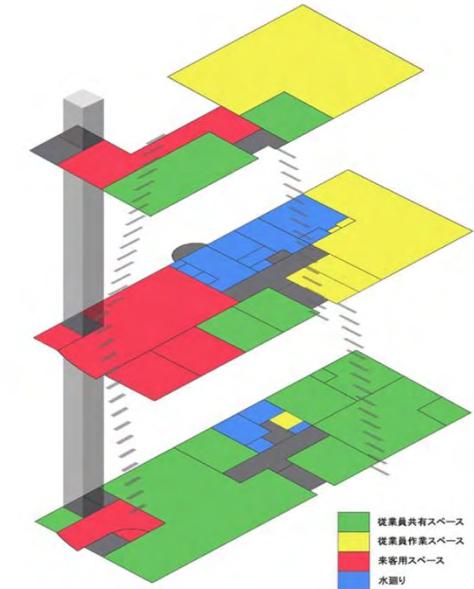
敷地面積 684.78m²
建築面積 416.77m²
延床面積 3350.07m²
鉄筋コンクリート造 地下2階 地上7階

敷地はソウル近郊の商業地区の一角に位置する、宇信相互信用金庫の本社である。設計当時はまだ、周辺は空地であった。建築構成を決める大きなファクターは、駅からの動線、西側に設置される大規模商業施設からの動線の2点であった。2つの乗客流路に伴う歩行者動線と自動車交通動線を中心とした開口部の設け方とその反映を目指した。機能的には市民への開放を通じて、都市に開かれる信用金庫の性格を与えた。建築的には無性格な都市のランドマークとしての役割を持たせた。



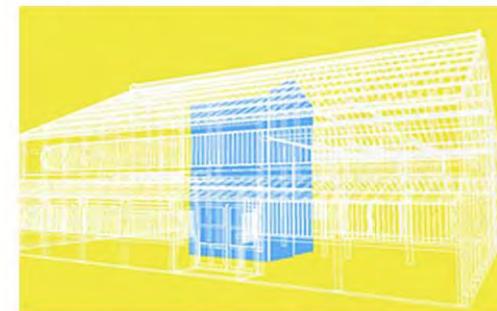
キンセイマテック株四日市工場管理棟

KINSEIMATEC
(2002 YOKKAICHI MIE)



ふとんの資料館

FUTON MUSEUM
CITY SCREEN XXXVI
(2000 NARAMACHI NARA)

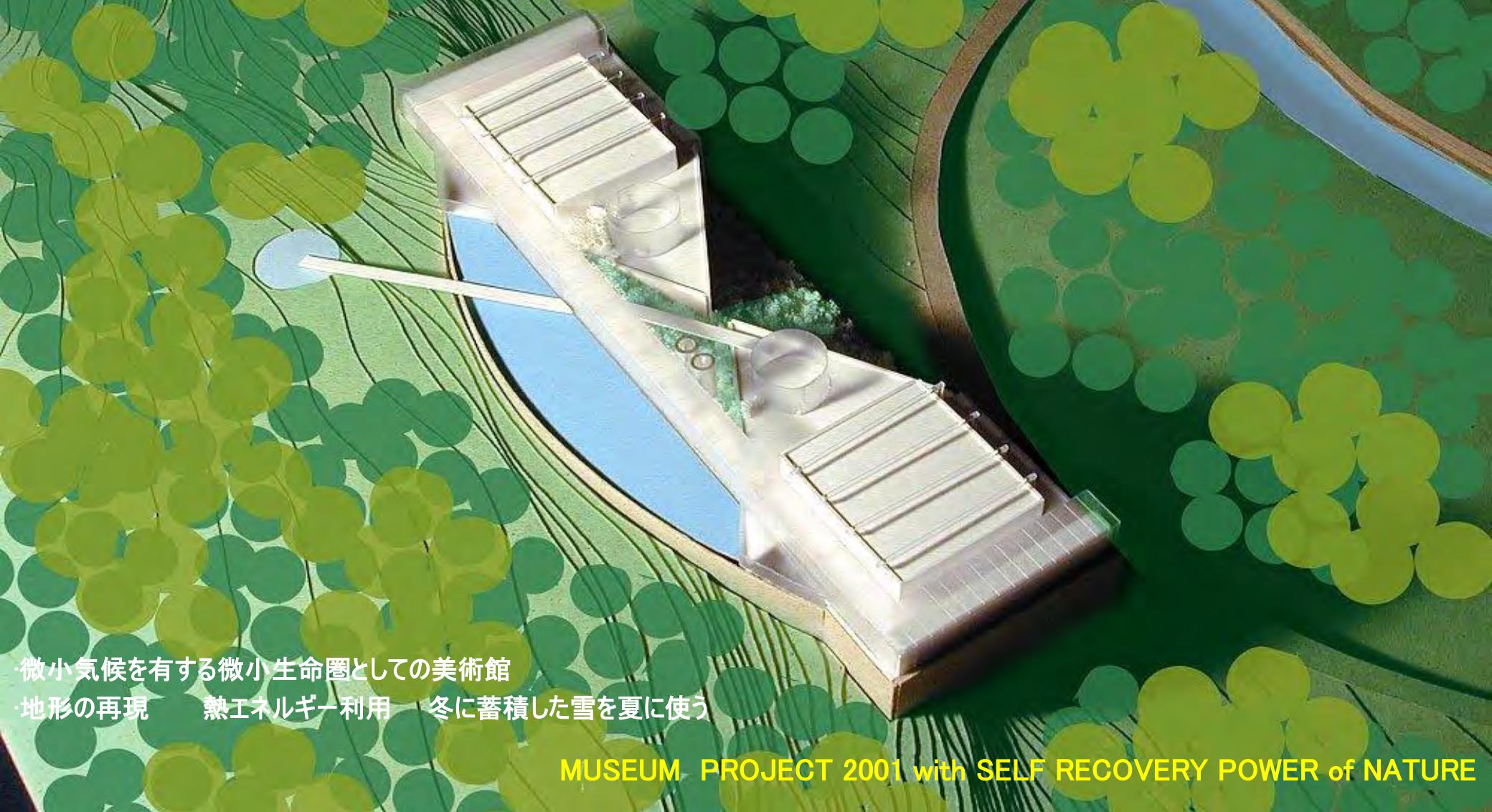


奈良市鶴町、通称奈良町に位置する。約150年前より、商家として利用されていた町屋の資料館としての再生である。現況建築の木軸組みを強調させるため、既存の内部こまい壁、建具はすべて撤去し、その分の構造負担を外壁、屋根、2階床に新たに構造用合板を加える事により、構造的強化を行った。また内部のシンボル的な4本の柱に囲まれたコアに強化ガラスを入れ、構造補強をすると共に、資料館としての象徴的なスペースとした。また、解体した建物の廃材を階段や家具などに可能限り、再利用した。現代的な観点で新しく手を加える事により建築は次世代に継承されると考えており、今回は存在感ある古典的軸組に、透明感あるガラスという異質な新しい素材を重ね合わせることにより、木軸組の意味を問い直し、古い建築の蘇生を試みた。約150年間にわたる伝統、歴史、人の記憶を継承しながら、建築が生まれ変わり、生き続ければと考えている。

unbuilt project designs

ARCHITECTURE with ENCOURAGED ARTIFICIAL NATURE
GREEN / WATER / ON FOOT / HUMAN SCALE

- MUSEUM as MICRO BIOSPHERE with MICRO CLIMATE
- Reproduction of the terrain Thermal energy use
- Spend the Summer Snow Accumulated in Winter

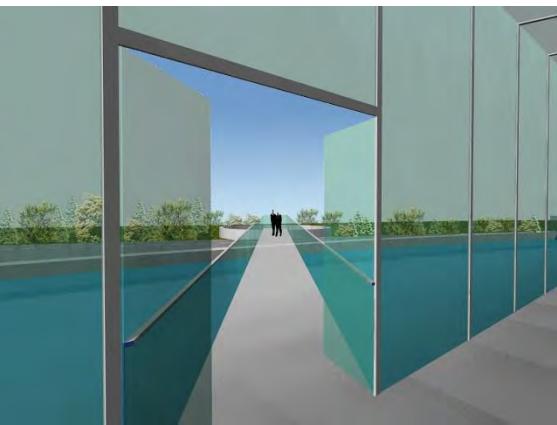


·微小気候を有する微小生命圏としての美術館
·地形の再現 熱エネルギー利用 冬に蓄積した雪を夏に使う

MUSEUM PROJECT 2001 with SELF RECOVERY POWER of NATURE

青森市立美術館

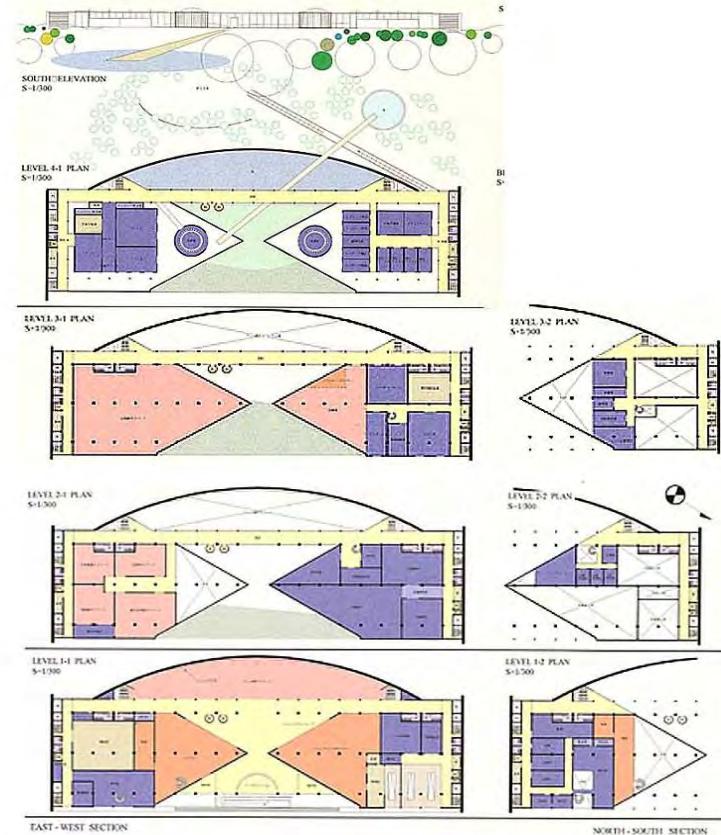
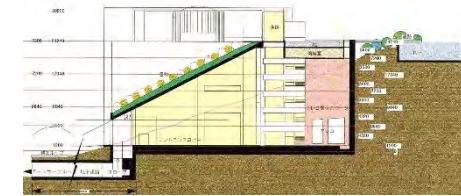
AOMORI ART MUSEUM
(1999 AOMORI)



青森県立美術館の設計競技への応募案。

縄文ループと関係付けられる最下階を導入部門とし、最上階に於いて丘陵部への開放性を確保し、現代芸術の多彩な展開を垂直方向に展開し、かつ自然環境への適合を果たす自然エネルギーの多彩な利用を通じた建築内部環境の自然なサイクルの形成を図る。外皮素材や緑化を通じて再生される自然との共存を探る。建築構成の文節を通じてスーパーヒューマンなボリューム感の減少を探る。大地との共存をテーマに現代につながる様々な生活の知恵を有していた縄文文化を21世紀に受け止める建築の提案である。

NORTH - SOUTH SECTION
S=1/300

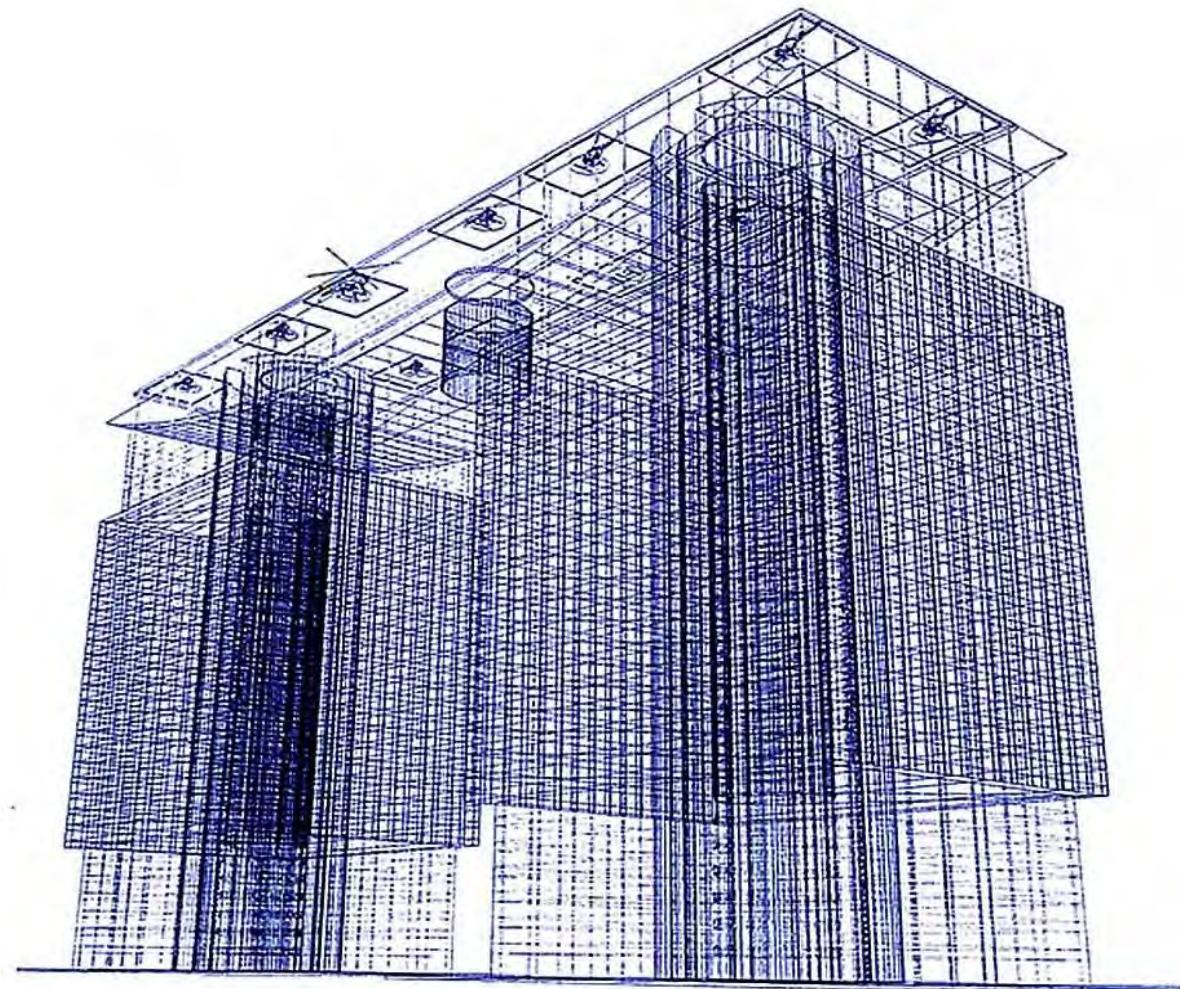
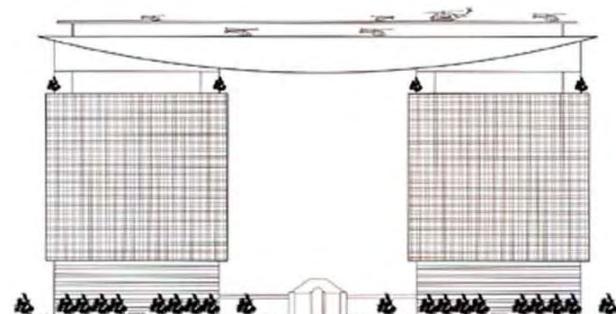


TOKYO GATE -HIGH RIZE COMPLEX, TOKYO

東京ゲート計画

TOKYO GATE PROJECT
(1997 CHIYODAKU TOKYO)

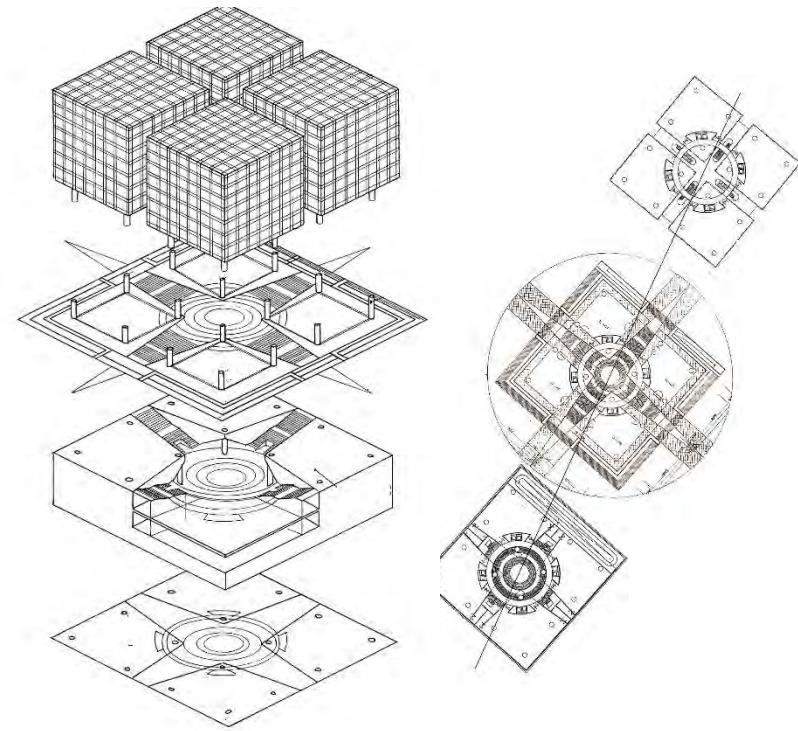
東京駅、丸の内地区に、丸ビル・新丸ビルが建っていた。
「TOKYO GATE」はこの2つの敷地を利用して、屋上を結ぶ
東京を代表する建築の提案である。建築は、1階に作られる
大きなアトリウム、地上近くの商業施設、中間階のオフ
イス、上層階の展望スペース、会議スペース、最上階のヘ
リポートより構成される。有事の際の危機管理スペースと
しての役割を持つ。



パリに浮く浮遊立体

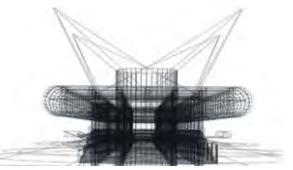
FLOATING CUBES IN PARIS
CITY SCREEN XVIII
(1997 PARIS FRANCE)

パリにおける日本の文化・ビジネスの拠点の形成の試みである。1階部分を開放し、上部に4つの27m立方体を配置した。1階はショールームであり、上部はオフィスとアパートメントである。地下には円形の階段広場を中心とした、茶道や能、武道などを演じたり教えたりする場を用意した。パリの地上部分に開放感を与えるための提案である。

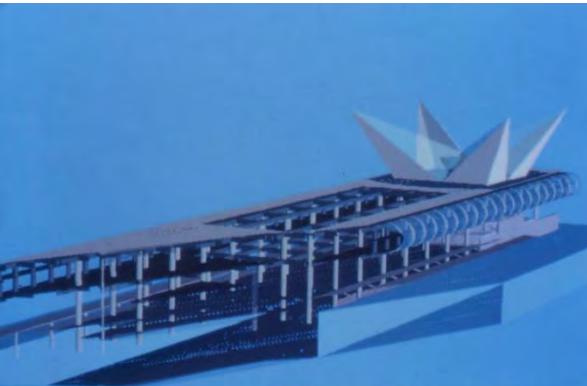
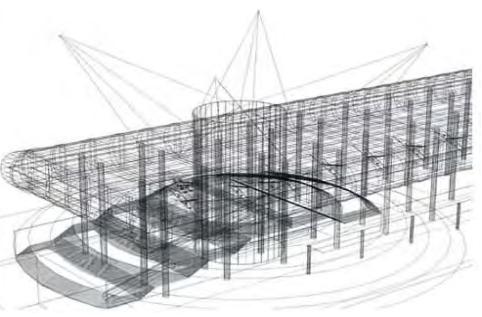
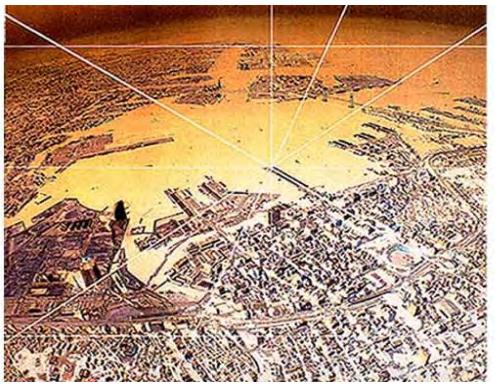
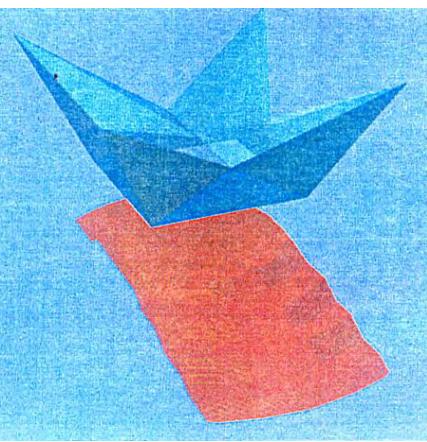
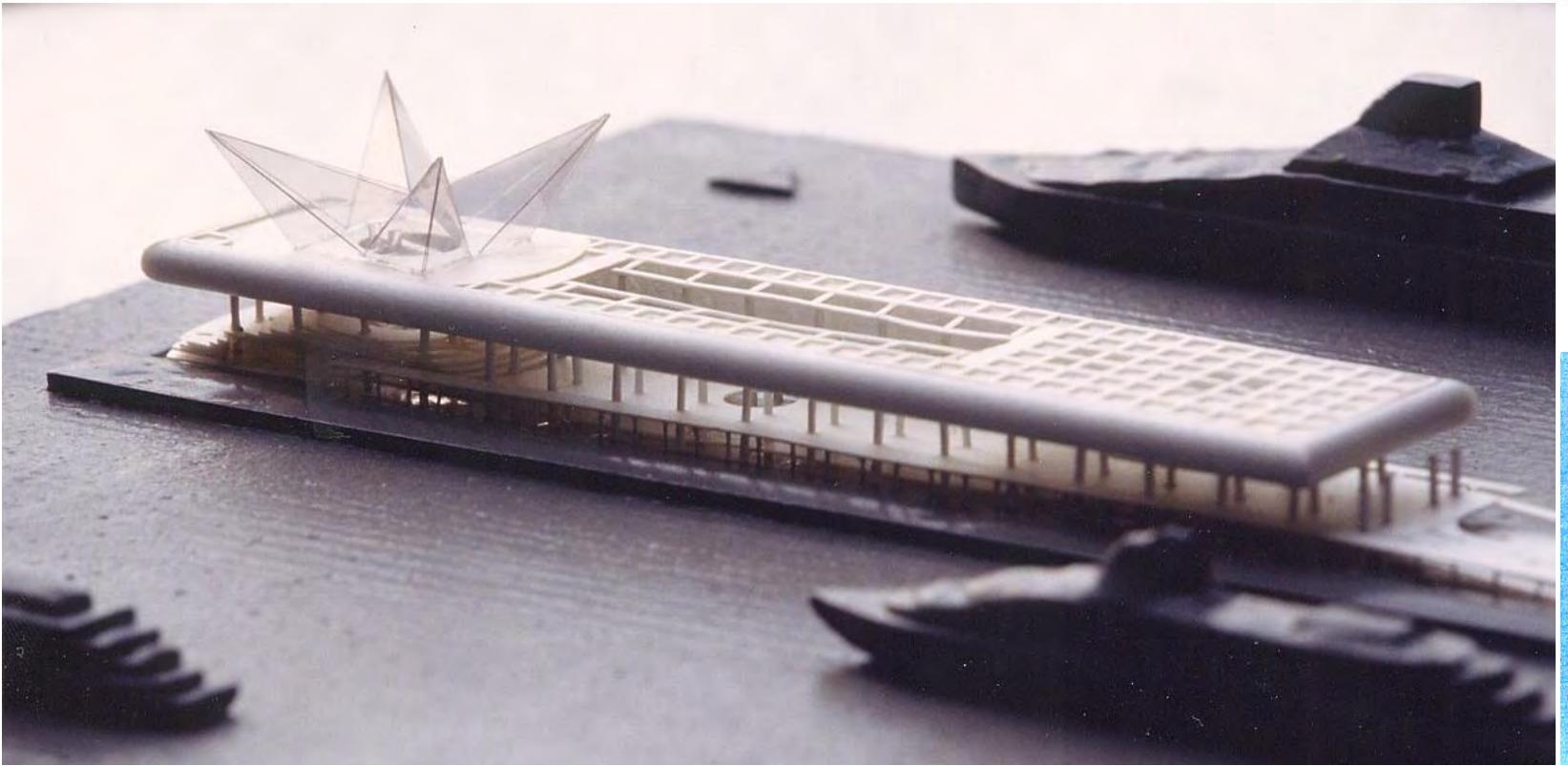
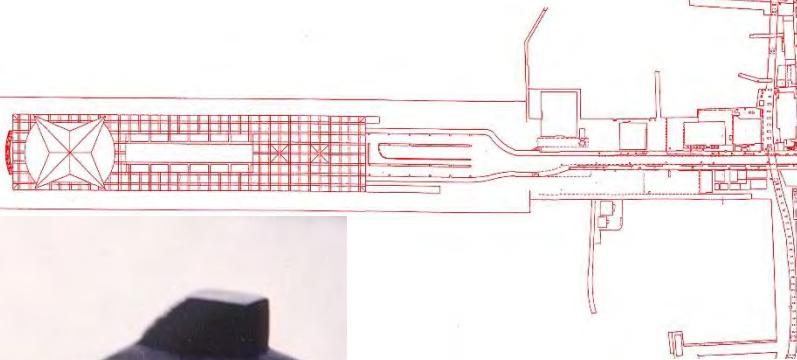


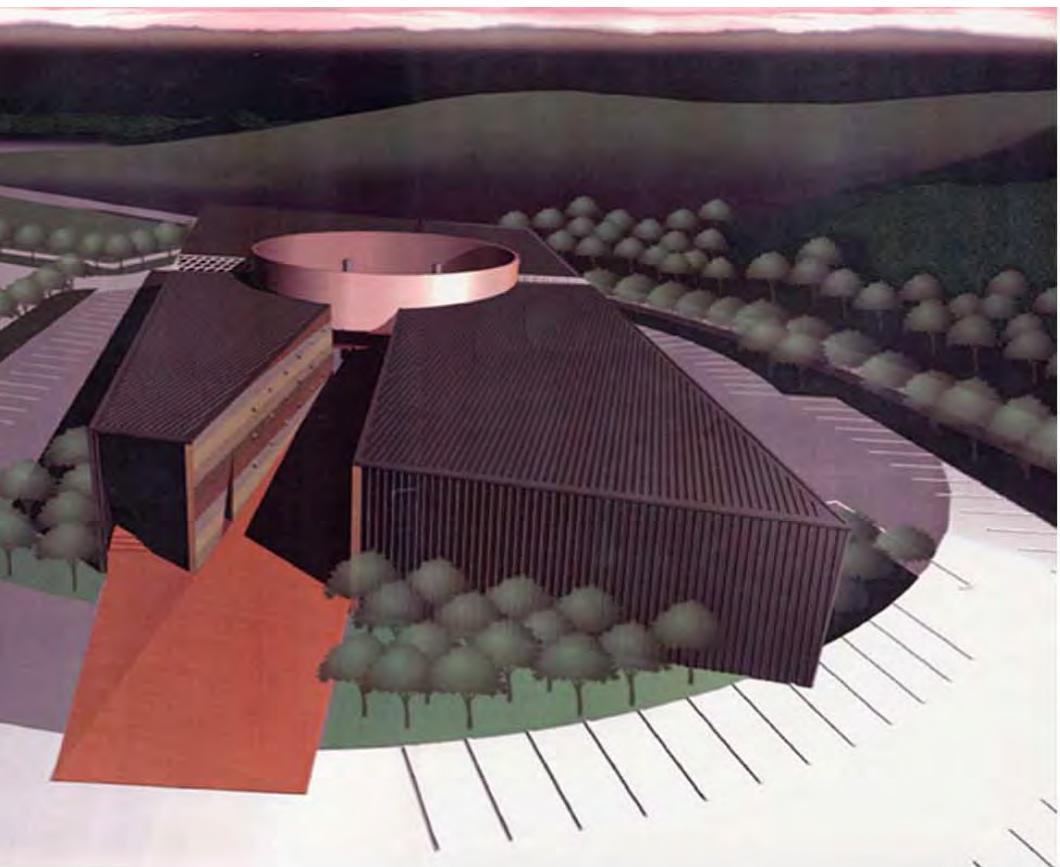
フローティング クラウン

FLOATING CROWN
(1994 MINATOKU YOKOHAMA)

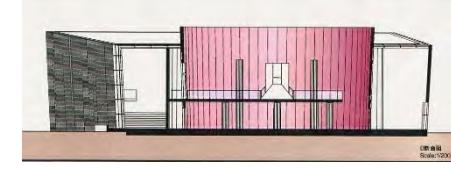
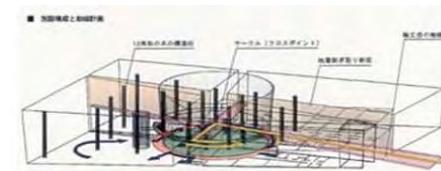


本計画地周辺には、垂直方向を示すランドマークタワーなど、都市の配線状態を緩やかな起伏として示すペイブリッジなど、様々なシンボリックな場所があり。ターミナル自身が海上に突出した記名性の高いスペースを構成しうる場所である。開放的な庭港にあってターミナルは建築を利用した海面に浮かぶ華である。その水平方向への伸長を強調した基部と、屋上から空に向かって開いたようなガラスのモニュメントは、形状から“水平線”と“浮かぶ花冠”を思わせる。ここで人は、旅あるいは人生の途中にある自分そして他人との出会い、時を過ごし、別れていく。





福井県三方五湖の縄文博物館のコンペ応募案である。自然への畏敬の念を、縄文人と共用すること。縄文人の歴史を表す地層を建築に再現すること。縄文人が経験したであろう大きな木の構造の空間を象徴的に再現すること。建築の中心に逆円錐形の外部空間を構成し、空との交歎の場を設ける。建築内部は、展示空間を始めとする諸室を回遊し訪れる構成とする。この5つの軸で構成される。そしてランドマークである梅丈岳に対する軸線を持ち、内部には空に開かれた円筒形の広場が作られ森でもある公園と一体化しつつ一万年近く昔の豊かな時空間の一部を再現する。



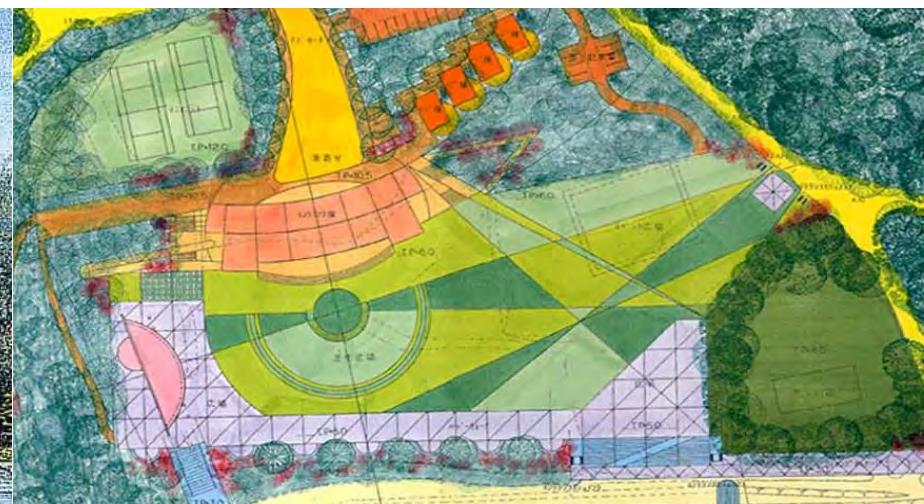
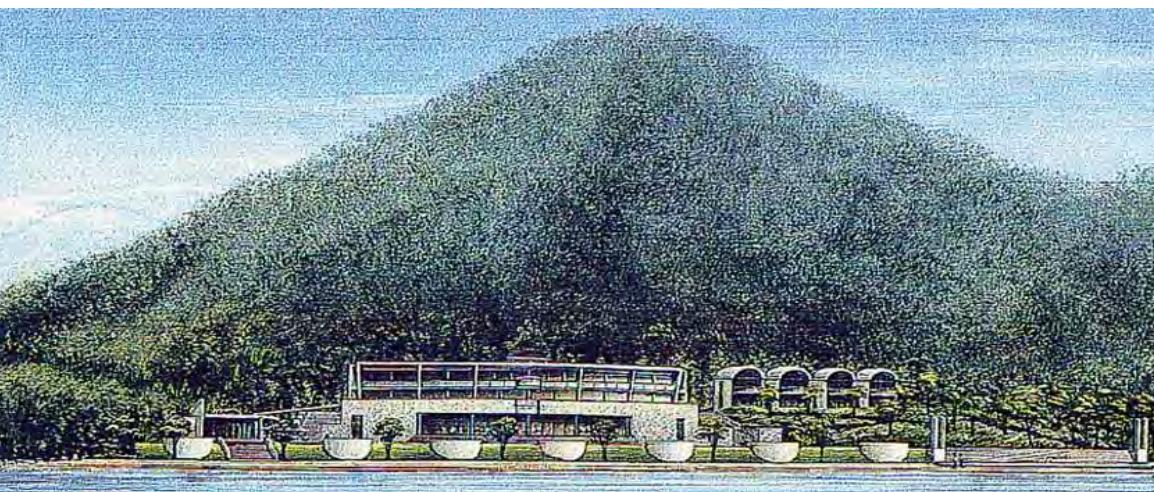
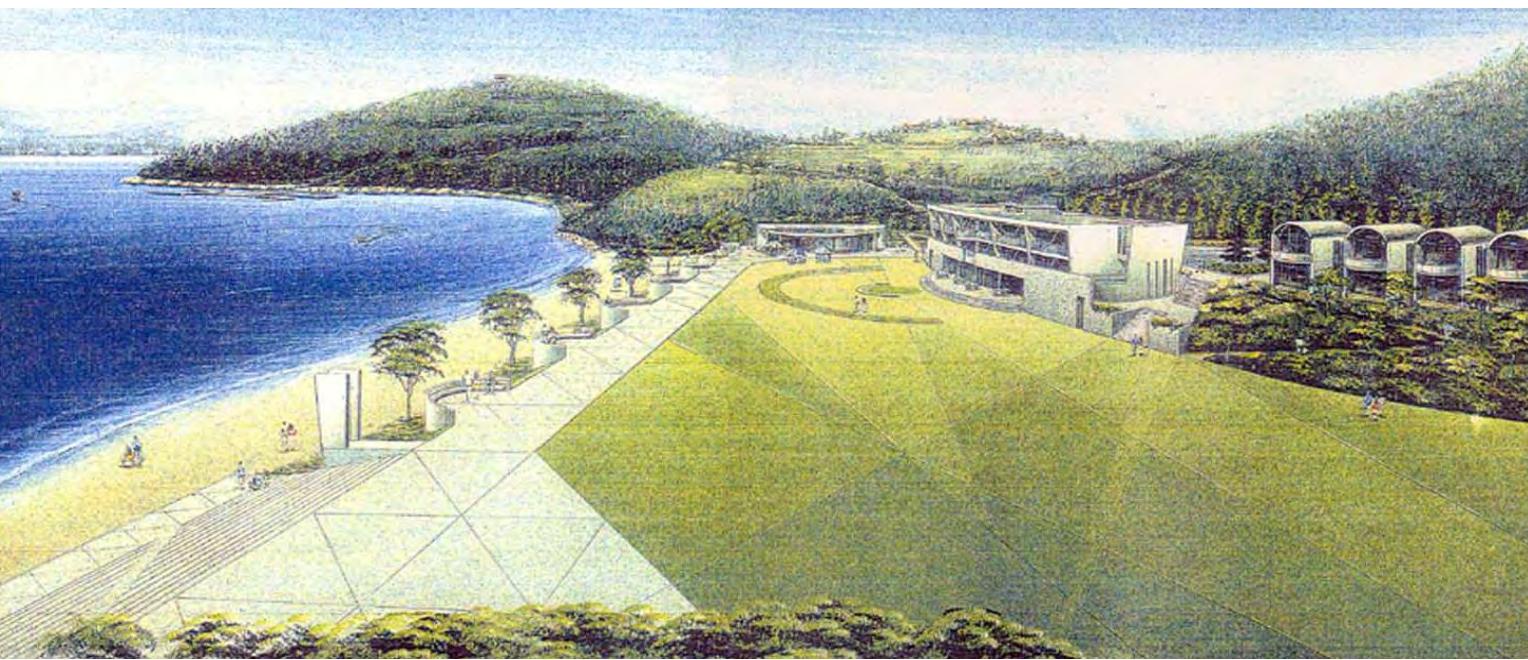
隱岐プロジェクト

OKI PROJECT

CITY SCREEN XXVII

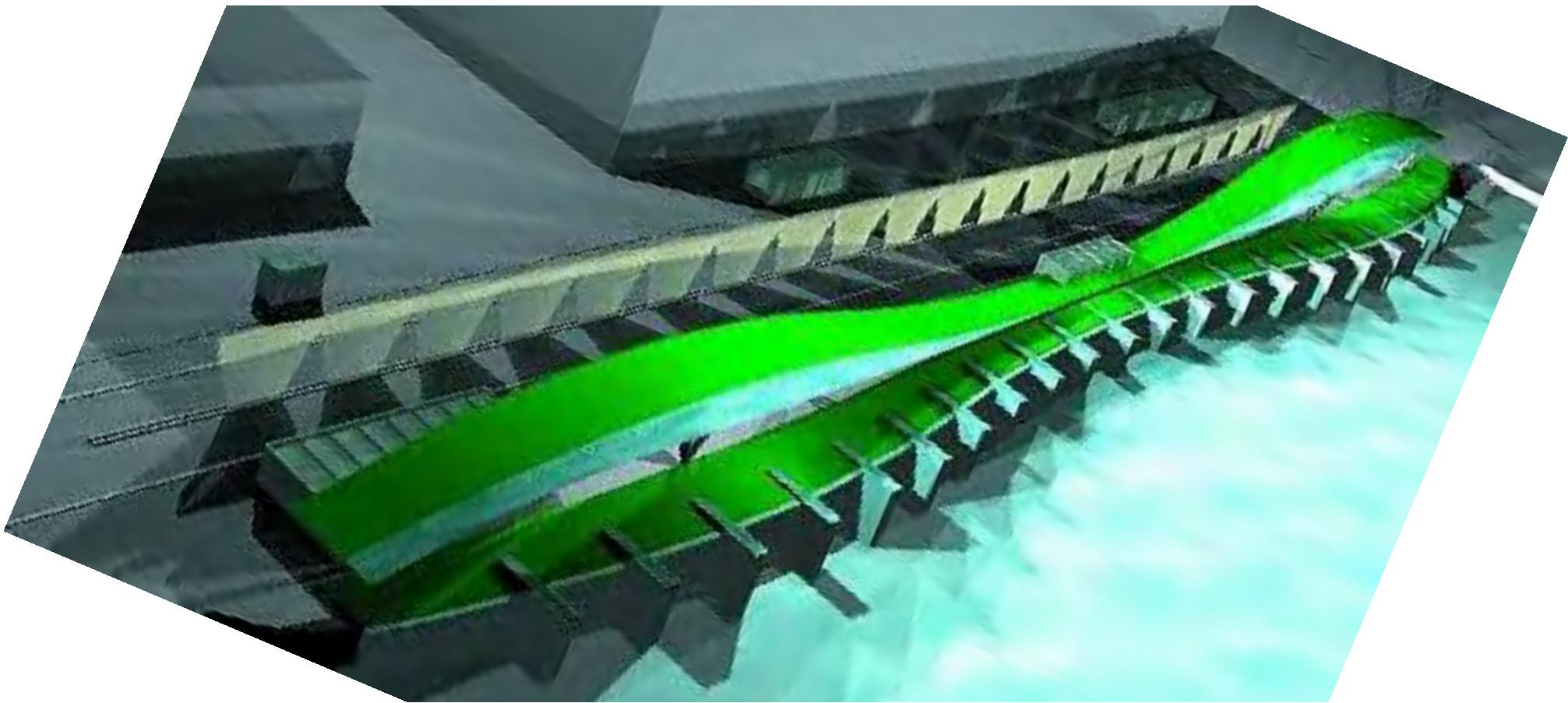
(1993 OKINOSIMA SIMANE)

島根県隱岐島の弁天鼻地区開発の中心的な役割を担う。監理中枢機能を有する宿泊施設を主として、海岸や半島、山間部、既存集落、港との有機的なリンクを考える。本館＝エントランス棟別荘感覚のヴィレッジ棟、屋外食事スペースのシーフードテラスの3中心施設よりなる。海辺には、海の広場、海のプロムナード、ハーバーウォークを配して人々を迎える自然との対話を進める場を用意する。自然との共生を計り、地域の可能性に満ちた未来像を探る。21世紀への指針となる地域構成を目指す。



中之島冷却回廊

COOL CORRIDOR NAKANOSHIMA RIVER SIDE SUBWAY STATION PROJECT 2004



The Landscape Design by a Continuous Waterfall

MICRO BIOSPHERE – River Area of the Metropolitan Center

Embodies the MICRO CLIMATE – Heat Island measures through the Transpiration of Water

Spatial Planning of the Subway Station that take advantage of the Natural Ability of the Region

Use of River Water, Solar Power, Natural Light, Thermal Energy Utilization

連続する滝によるランドスケープデザイン

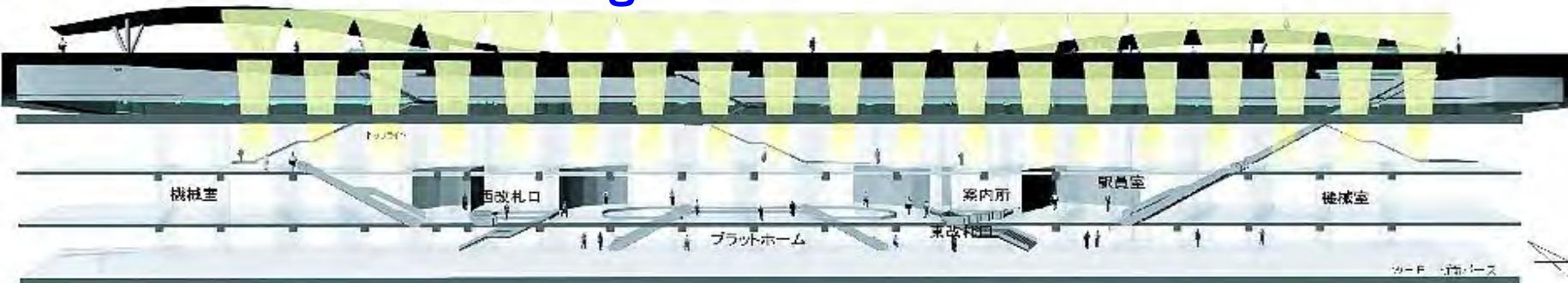
・微小生命圏-大都市中心部の河川域。微小気候の体現-水の蒸散を通じたヒートアイランド対策。

・地域の自然能力を生かす地下鉄駅の空間計画。河川水の利用、太陽光発電、自然光、熱エネルギー利用。

WATER
FALL
along
RIVER

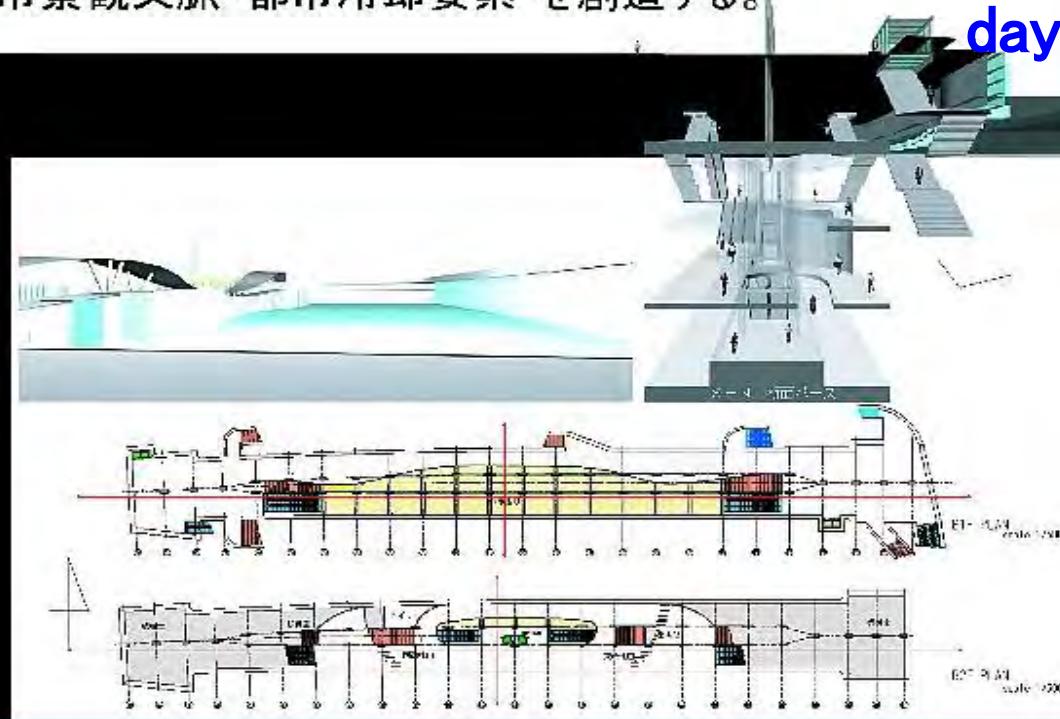
LIGHT
SCAPE
day & night

COOL CORRIDOR through STATION PROJECT

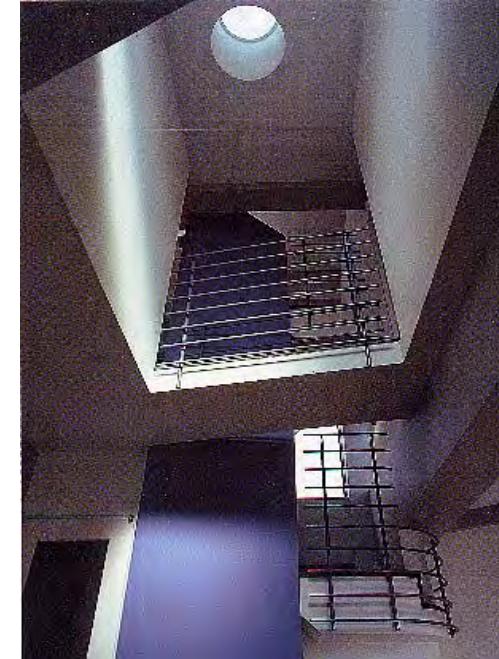


”水と緑と太陽の中央廻廊”中之島に都市景観文脈・都市冷却要素・を創造する。

大江橋冷却廻廊



housing designs



VIA SETTE MINOH



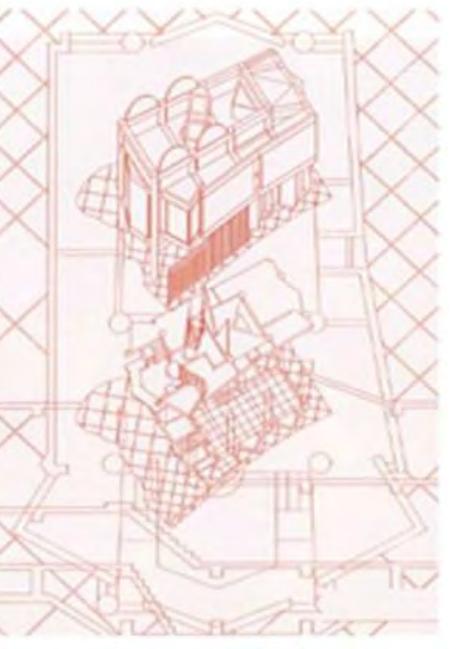


アトリエ

ATELIER
CITY SCREEN VII
(1987 MINOH OSAKA)



敷地は大阪府北部の山麓住宅地である。外部環境に対しては、街路の屈折点に位置し、消点を形成する地点であることから都市の視覚的方向性を形態化すること、壁面後退して形成される街並みを内在化させることに留意し、内部環境に対しては、土地利用の有効性を高めること、街路側のプライバシーを確保すること、日照量を確保すること、パブリックな空間の二層にわたる自然な連続性の獲得を図ることに留意した。都市の結界として、内外空間の自由な可塑性が獲得されるとき、“時の彫塑”を志向した。

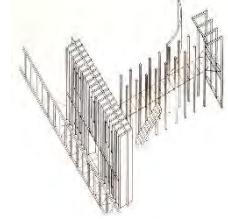


箕面回廊

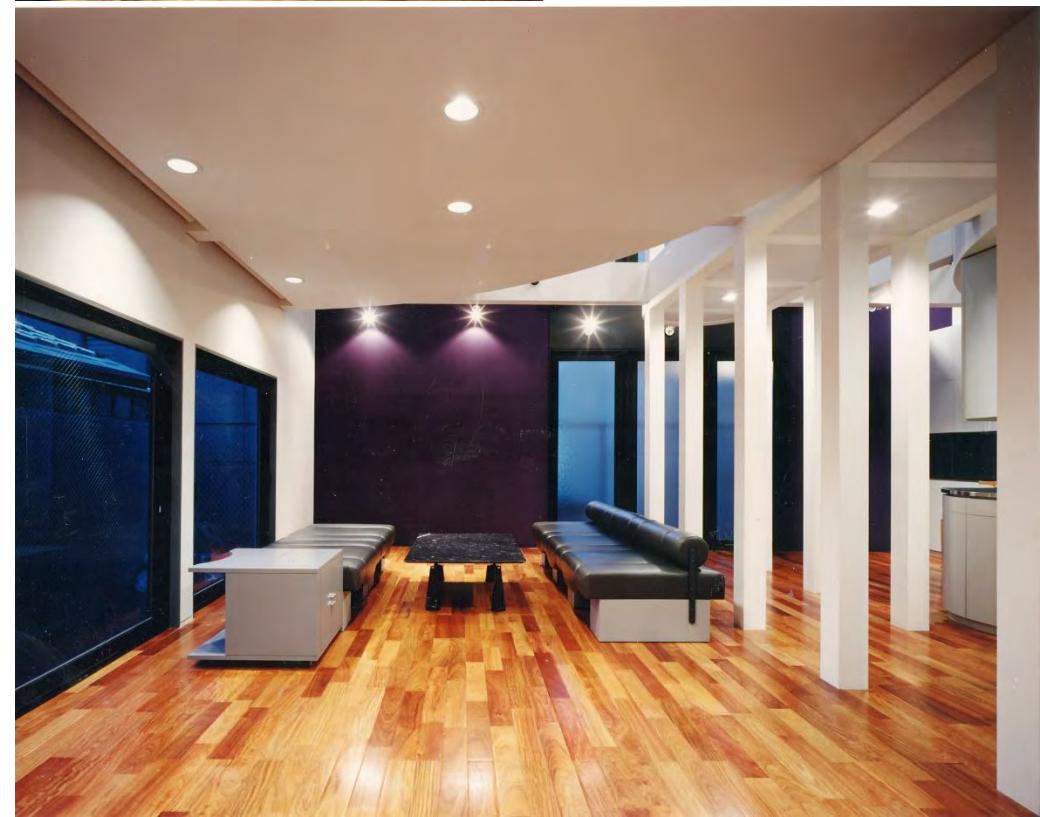
MINOH CORRIDOR
CITY SCREEN XXXX II
(1999 MINOH OSAKA)



大阪府北部の近郊住宅都市に位置するこの住宅は建物の中心にある1階中庭と2階テラスを取り囲むように各部屋が配置されている。この光庭である中庭を中心に家族が生活を営む1階は家族のパブリックスペースと老父母のプライベートスペースからなる。床レベルをフラットに仕上げることにより足の不自由な祖母が室内を自由に回遊することを可能としている。2階は子供室と主寝室が東西に分離されており、中庭・テラスを取り囲む縁側上の廊下がお互いを結び付けている。1階と2階は居間上部の吹き抜けと中庭によって内部・外部とも垂直方向ヘシンボリックな場が形成され、ともに連続性を与えている。外壁は黒いガルバリウム鋼板と銀のアルスター鋼板から成り、アール状の屋根との構成が浮遊感をもたらし街に方向性を与えていた。

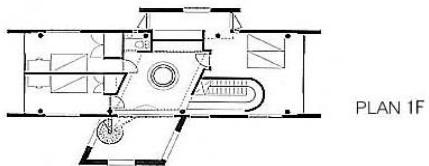


昭和30年代に建てられた木造アパート、不特定な個人のための個室住居群としての共同住宅を、特定される一家族のための「イエ」へと再編集した。「住む器」としての構造体を同じくしつつ、居住形式の変異を空間の変異として、かつて想像力の外にあつた幻象を探り生み出す作業である。

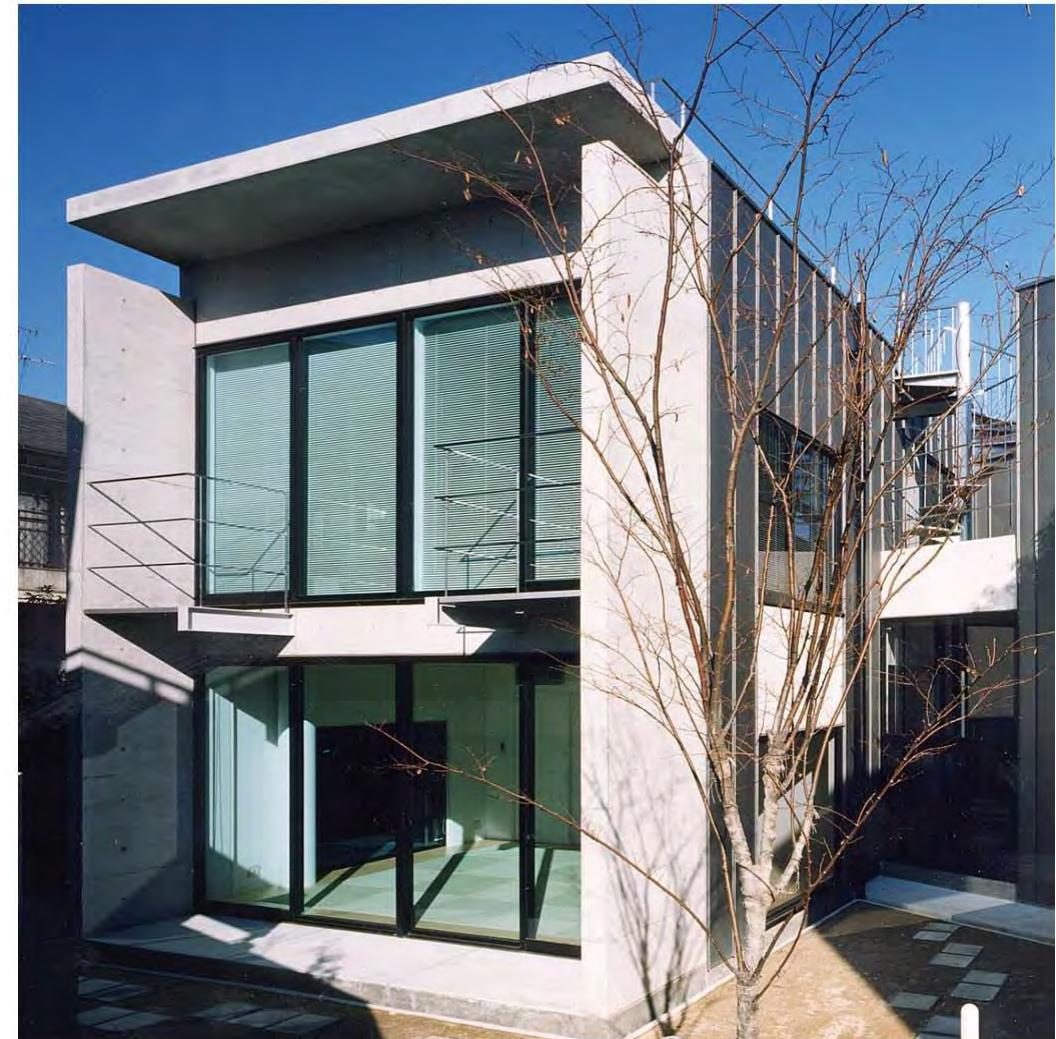
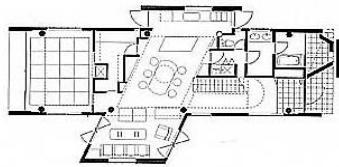


豊中の家

HOUSE AT TOYONAKA



PLAN 1F



land scape design

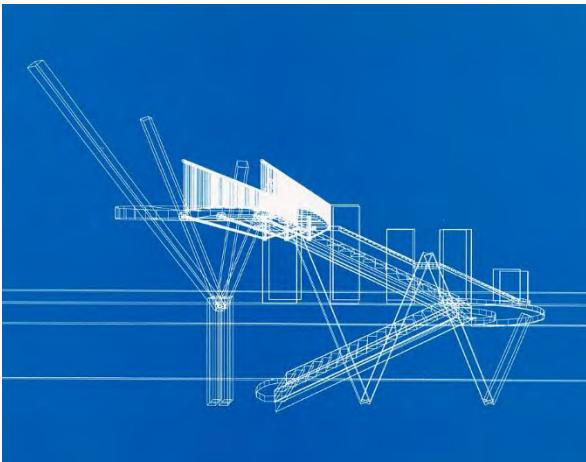
大阪府堺市を中心部の熊野小学校の敷地南側が対象地である。この景観整備事業を「都市像復活プログラム」と名付けた。環境デザインを通じて、滑らかなコンテクストをシンボルロードにおいて構築すること。堺市街地における往年の歴史的な都市存在の意味を、現在という時間の中で再度探っていくことを目指した。敷地である線状の場に、双方向の起承転結のドラマを構成することを意図し全体として街路公園とでもよべるような公共空間を生み出そうとした。

中心となるのは、非シンメトリーな配置で、鉄骨造とコンクリート造となっている歩道橋で、都市の中にリズミカルな回遊性を垂直に産みだすことと、街路の南北を結ぶ都市内対話手段となることを意図し、ネーミングも遊歩橋とした。



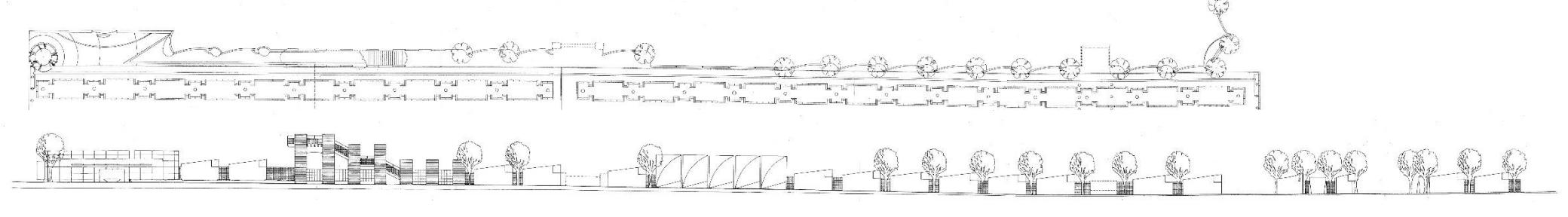
熊野小学校景観整備事業一都市像復活プログラム I

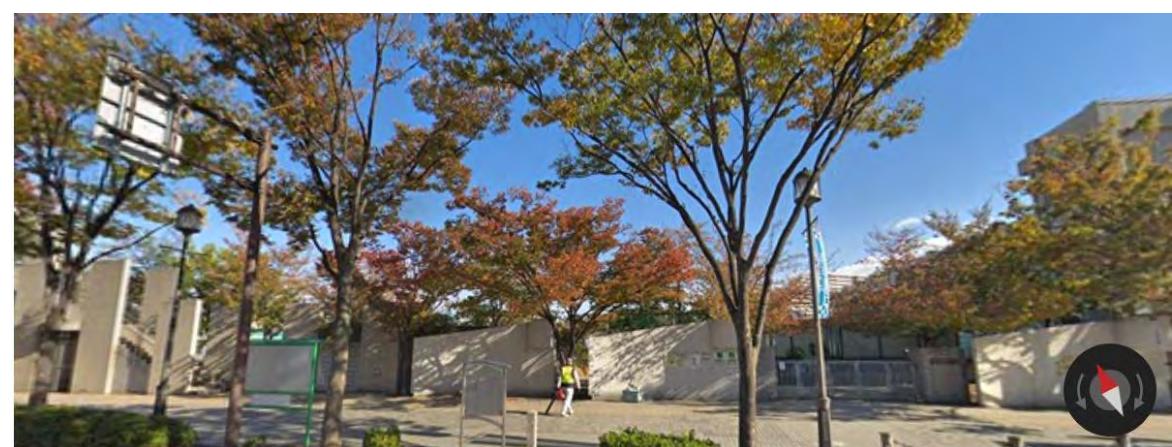
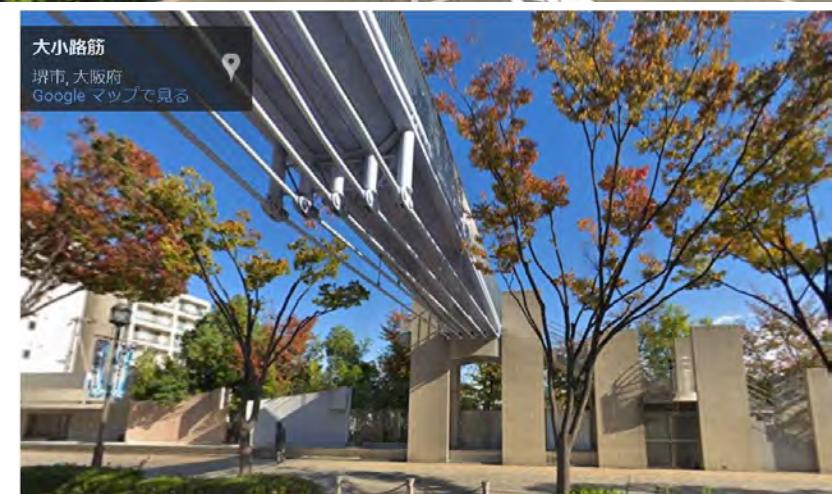
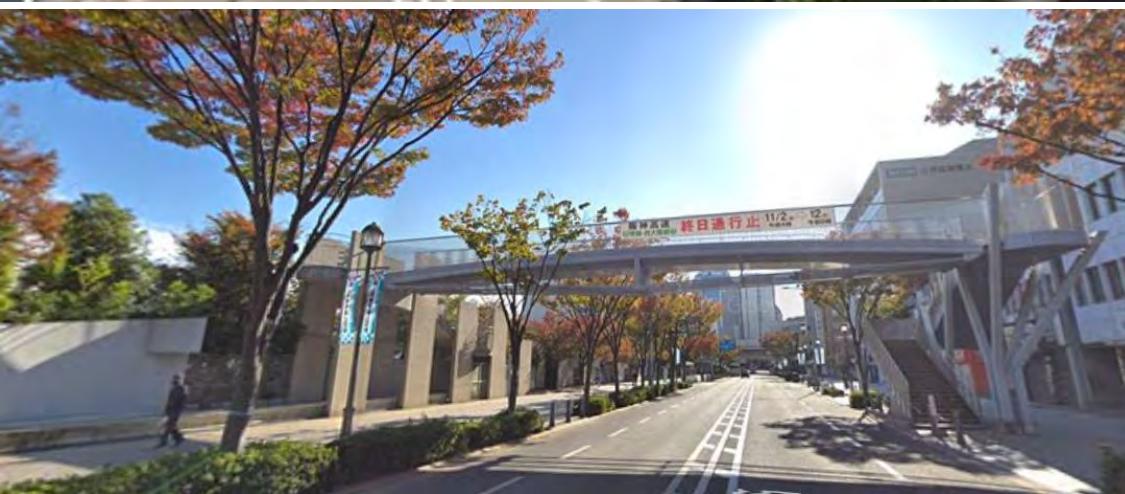
YUYA LANDSCAPE PROJECT
(1996 SAKAI OSAKA)



熊野小学校景観整備事業—都市像復活プログラム I

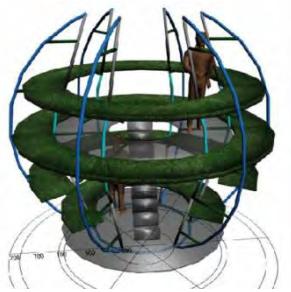
YUYA LANDSCAPE PROJECT
(1996 SAKAI OSAKA)







SEASIDE FARM



2005 G-MARK ECOLOGY DESIGN AWARD

Increase amount of sunlight reception, promote photosynthesis, stabilize and recirculate CO₂/O₂

Low-energy production of BIO ENERGY crops (sweet potato, etc.)
GOALS

Discover industrial expansion possibilities of factory-style agriculture on unused land of Osaka Bay coastal area.

Investigate the application possibilities of bio technology in primary industries

Explore industrial development in areas lacking energy supply through operations using locally procured energy

Land-less Factory-type Vegetation Agriculture Equipment, Efficient Omni-directional Solar Energy, Hybrid Energy





SEASIDE FARM2005 自立する鉄骨構造



AIR NEST

き
巣
す

飛躍する三つの力
三島市の平和・自然・文化が、支え合う
三本の柱で表現されています。

水と緑の街 三島
素材のステンレスは流れの清水を表現し
橋とともに水と緑の広場を創ります。

未来への希望
先端が向かう富士山からの空気の流れ
を受け、感謝と希望を表現します。

三島大好き市民より

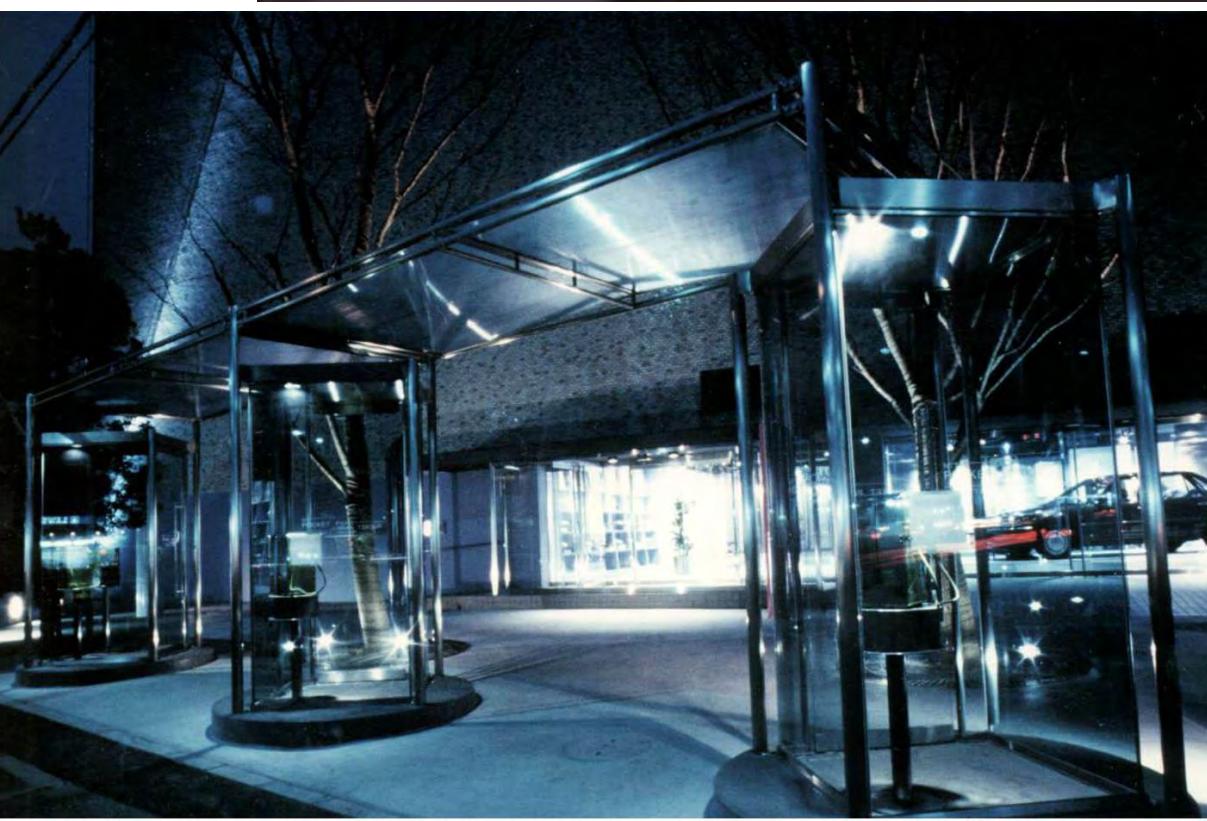
20091001
制作 池上 俊郎



KOBE BRIDGE 1997



NTT POCKET PARK NEYAGAWA



OTEMAE SENIOR HIGH SCHOOL
OSAKA PREF. JAPAN

大阪府立大手前高等学校
OTEMAE SENIOR HIGH SCHOOL
OSAKA PREFECTURE



太陽の記憶

MEMORY OF THE SUN
(2002 IBUKICHO SHIGA)

敷地であるジョイ伊吹（薬草の里文化センター）芝生広場は太陽に満たされ、豊かな木々とともにあります。

あらゆる生命は太陽の恵みである。薬草もそうした恵の産物であり、ここ伊吹には遠く西欧から得られた植物が数百年の時を超えて根づいている。

モニュメント「太陽の記憶」は、"薬草がいざなう自然の力への憧憬"を"生物の記憶の根源の構成"である2重螺旋で表現しようとするものである。

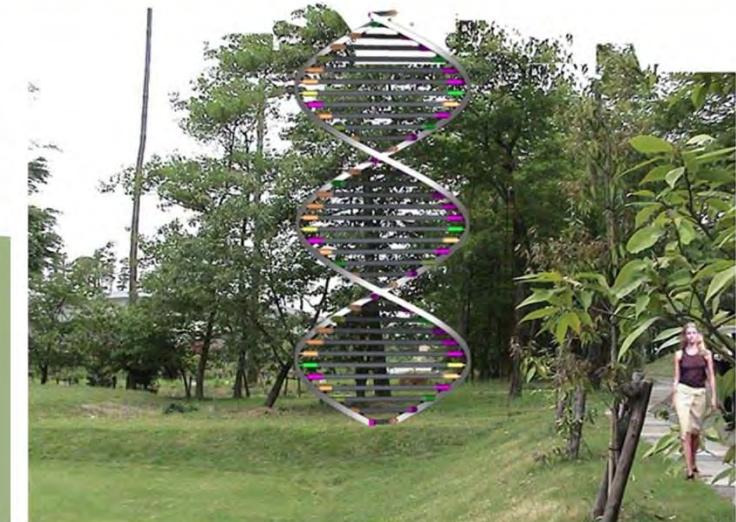
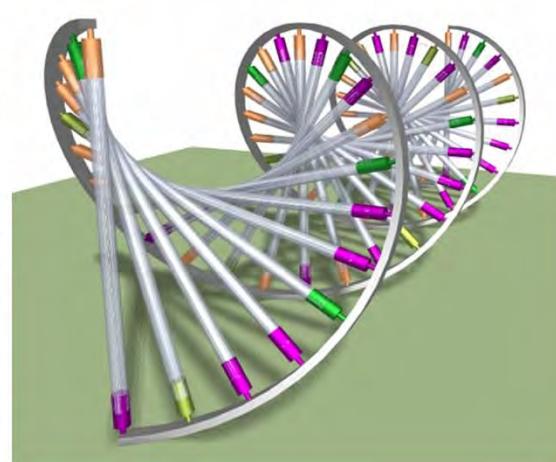
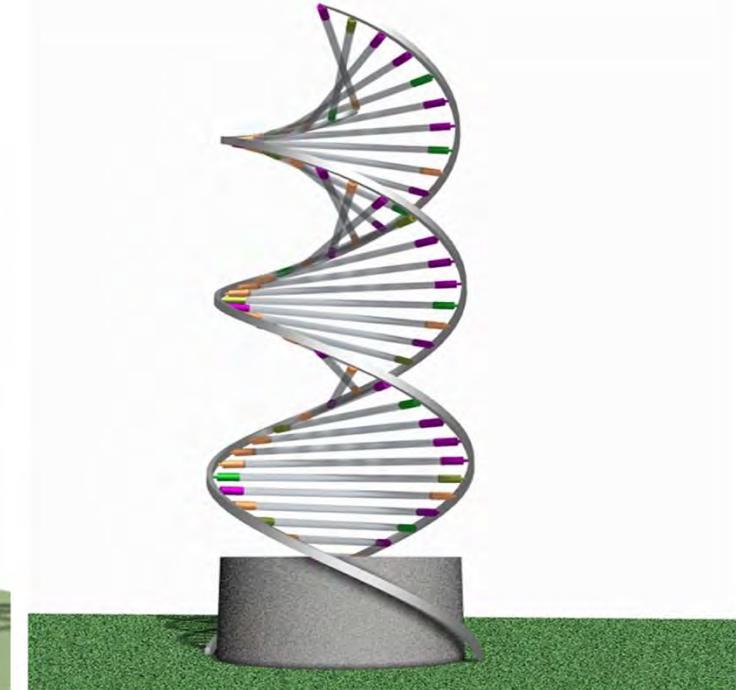
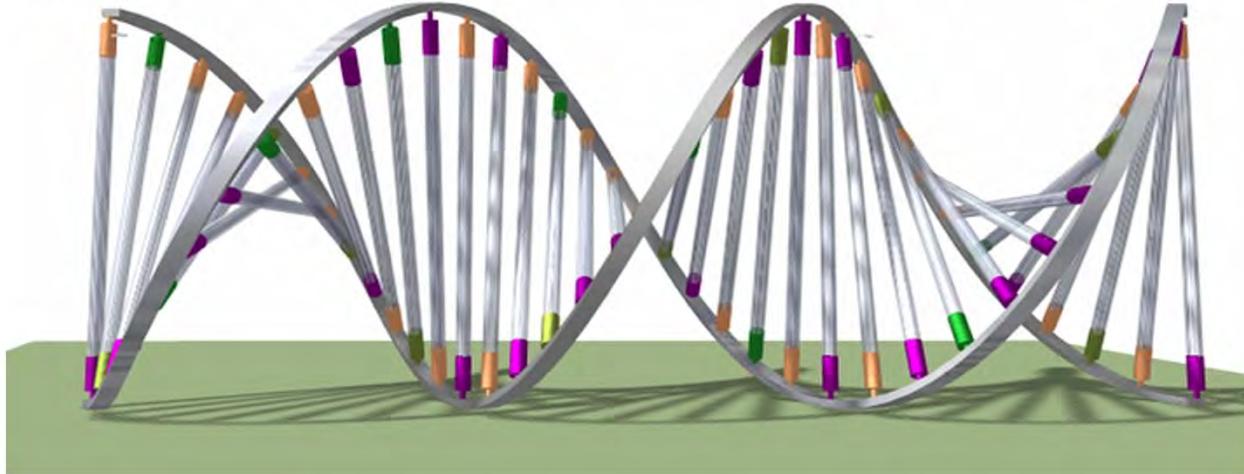
2重螺旋構造の中を巡る水はソーラーチューブを経て温水となって人々を癒す役割を担う。

「太陽の記憶」として太陽から直接熱を得て薬草風呂に供給される。

訪れた人々の心を伊吹山のもてなしとして薬草とともに満たしていく。

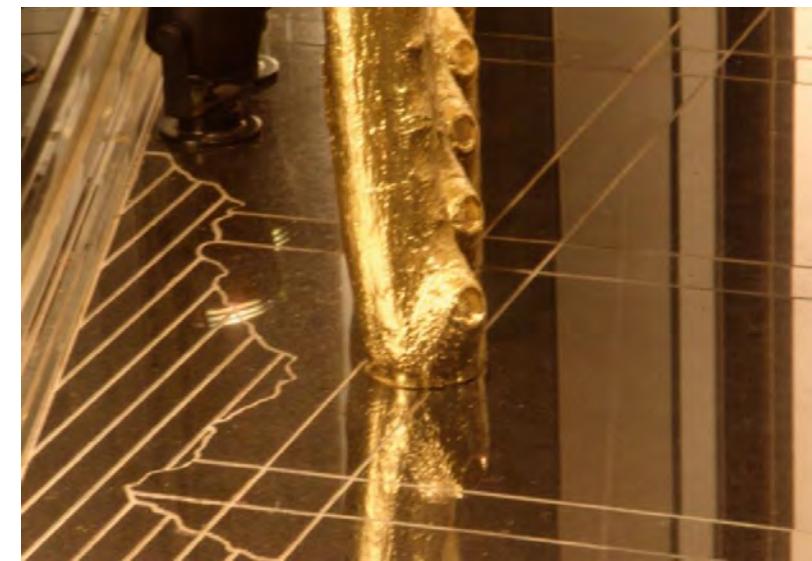
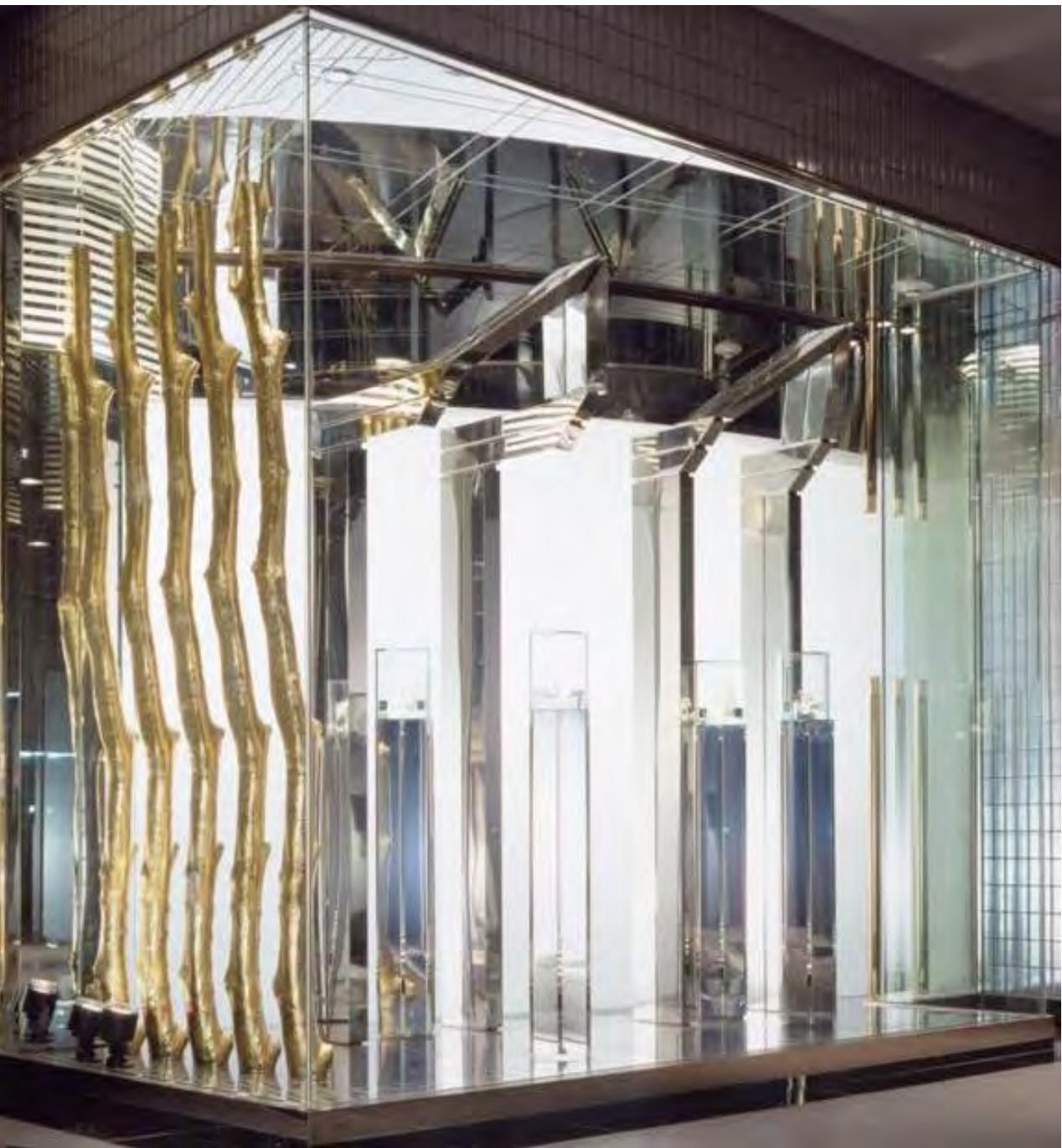
地球環境問題への真摯な取り組みが求められている現在、私たちは自然との豊かな関係の構築が求められている。

モニュメント「太陽の記憶」は"自然との豊かな関係"を具体的に示し活動するモニュメントである。

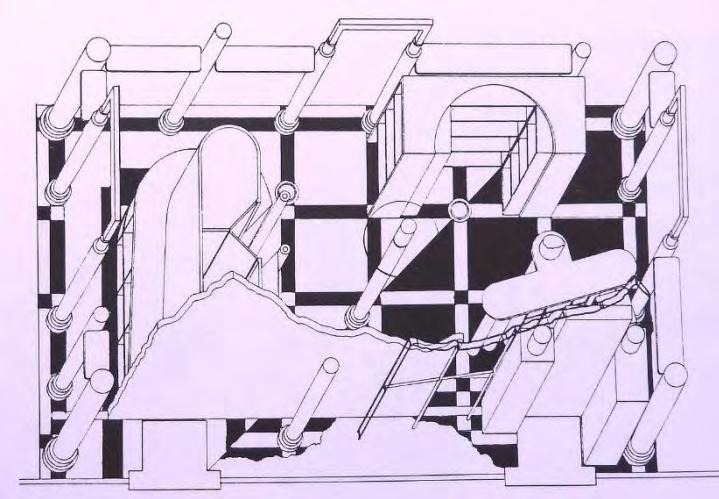


interior designs

PEARL DIMENSION 大月真珠







AMBER HOUSE 1982

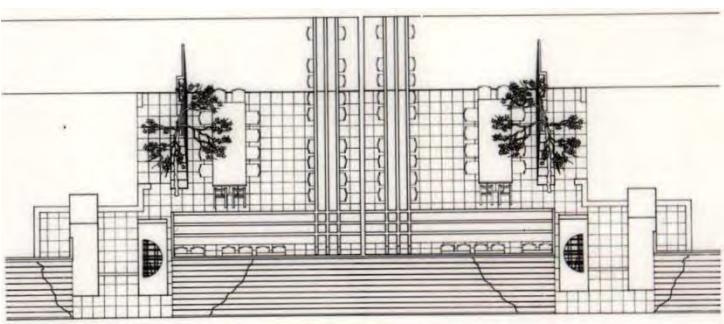


本みやけ

HONMIYAKE

(1985 KITAKU OSAKA)

“D. D. House”と名付けられたこのフロアは“江戸の街”というサブタイトルのもとに飲食店ゾーンを構成している。このフロアの「本みやけ」は、初めてのいわゆる“和風”である。“和風”ではなく“和”でありたい。ビル内部とはいえ都市への指向を持つビル側のコンセプトの上に街形成のシーケンスを作りたい。ファサードは不整形なアルミパネルと一部透明なラインの入ったスリガラスを使用した。アルミパネルは、格子戸を中心とする町並みに帰のもつ柔らかさを持ち込み、街のアルコープでもあるエンタランスは、自然な導入を促す。内部は濃灰色を基調とし、天井のクロスする梁により場に緊張感を与え、全体としてさらなる外部空間を形成することを図った。



新三浦 SHIN MIURA OSAKA HOUZENJI



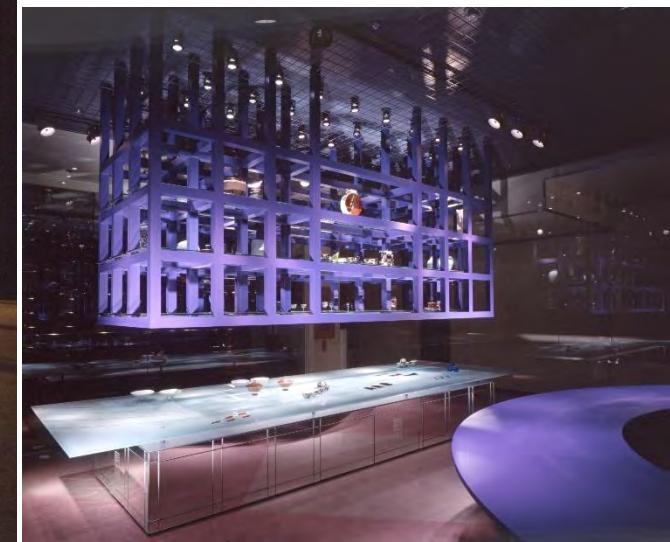
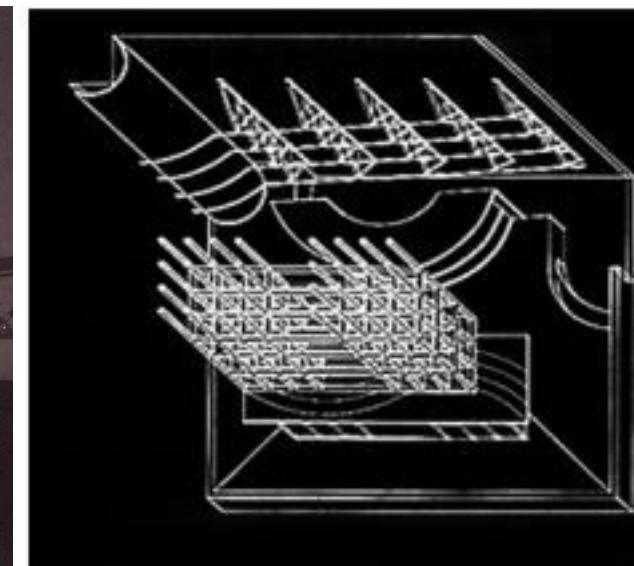
京都クラフトセンター KYOTO CRAFT CENTER



ステージ京都

STAGE KYOTO
(1989 MINATOKU TOKYO)

「ステージ京都」は南青山に立地し京都市の第三セクターが運営する自治体主導型の現代クラフトのパイロットショップである。立地する建物の1・2階には日本の伝統産業の拠点が入居している。ここでは比較的無性格な建物内における、店舗構成上の空間的序列の組替え、テナント傾向の連続性を探った。3方向にあった壁を撤去しオブジェを内包するガラスのショーケースとしての空間構成を求め、吊り下げられた立体格子は、視覚的重心を上方に移動し、垂直方向を強調する。



上村花園 UEMURAKAEN KOBE



WILL HAGIYA CLEANING HIROO TOKYO

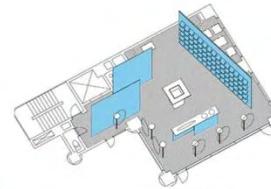
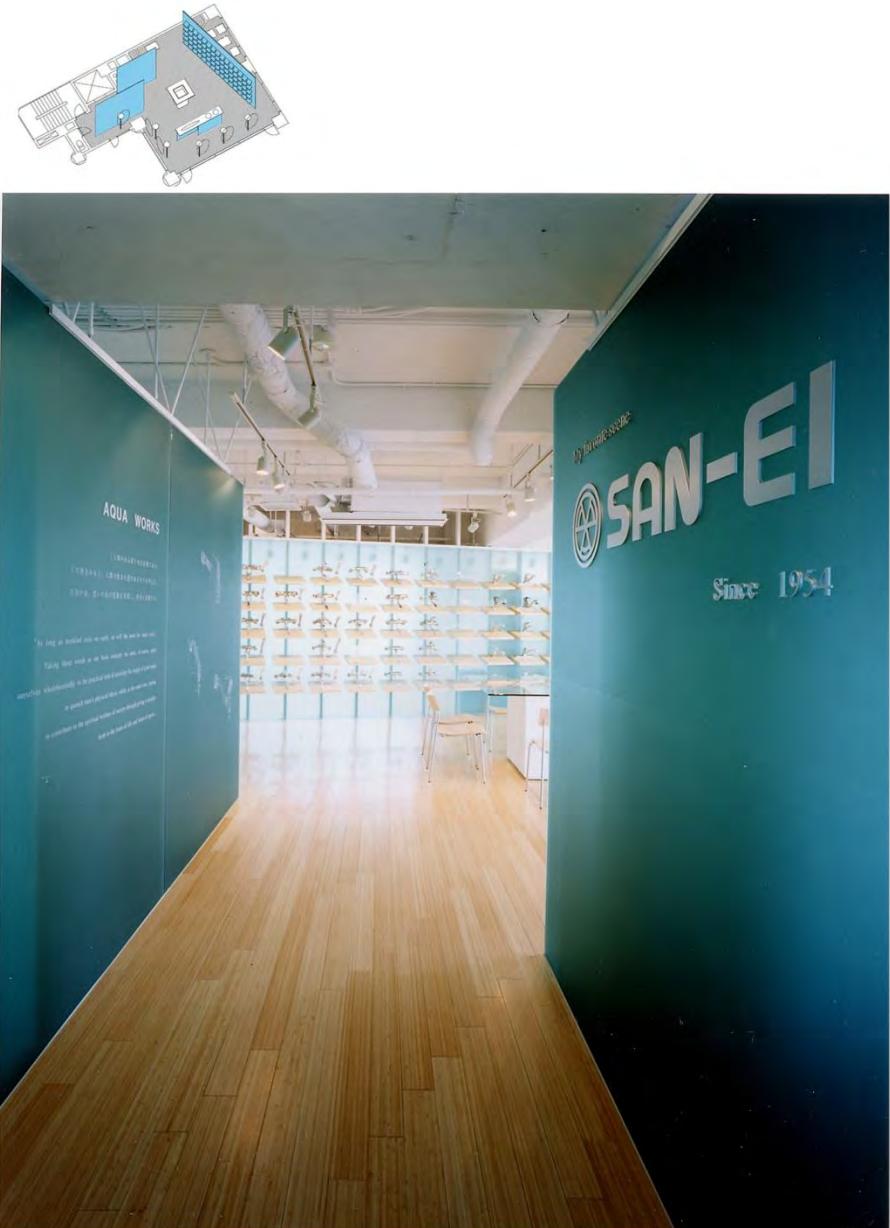


OZAKI DENTAL CLINIC OSAKA



三栄水栓ショールーム
(2000 KOHTOHKU TOKYO)

水まわりの製品とシステムの専業企業のショールームである。
基本要素は水平面を地下茎の水脈を意味する竹材の床、垂直面淡水の印象を直喻的に
グリーンガラス、基調色としての白とした。ショールームの展示は、企業ポリシーを
反映している商品が有する構造性を分かりやすく空間構成に重ねることと考える。



インスタレーション ワークス

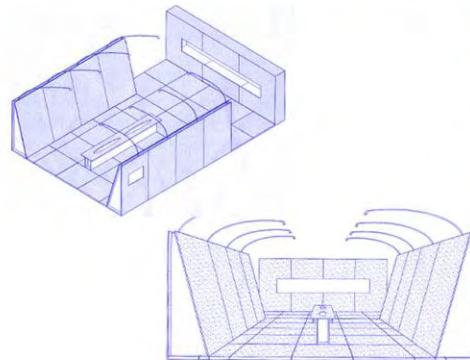
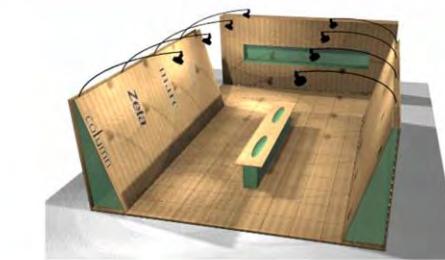
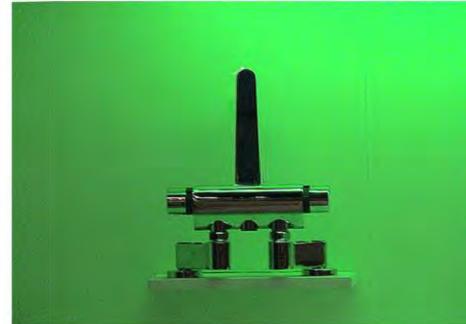
INSTALLATION WORKS 2001

(2001 TOKYO - ORLANDO,USA - SHANGHAI,CHINA - TOKYO - OSAKA)

展示会の宿命である、短期間で行われ解体される展示会インスタレーションについて、環境問題の視点からアプローチし、低コスト、廃棄物利用、再利用性、簡略性を考慮に入れ、素材選定、デザイン構成を決定した。乾燥した大地—沙漠—の暗喩として使用しているパーティクルボードは再生素材である。出展企業の提唱するメッセージである、自然との調和、水の潤い、美しさ、優しさといったイメージを閲覧者に表象させる空間を目指した。



- Tokyo Big Sight, Tokyo, Japan (March 6-9, 2001)
- Orange Country Convention Center Orlando, Florida, USA (April 27-29, 2001)
- Shanghai Everbright Convention & Exhibition Center Shanghai, China (July 3-6, 2001)
- Tokyo Big Sight, Tokyo, Japan (August 2-4, 2001)
- Intex Osaka, Osaka, Japan (September 13-15, 2001)



product designs

マーレ

mare
SAN-EI FAUCET MFG.CO.,LTD

水栓金具メーカーの商品構成中、最高位機種に位置付けられる本製品は、企業のフラッグシップ製品としてのデザインが求められた。シンプルな断面形を組合わせる事で、重厚かつ浮遊感のあるデザインを目指した。

mare



サーモシャワ混合栓 Good Design Award 2000



サーモ混合栓



シングルワンホール洗面混合栓



シングルワンホールスプレー混合栓



シングルワンホール混合栓



公衆用の椅子試作品 II

PUBLIC CHAIR PROTO TYPE II

(2001 Tokyo Designer's Week)

Material:Stainless steel-Wedge Wire Screen,22B×0.5mm/D45×50P(Toyo Screen)

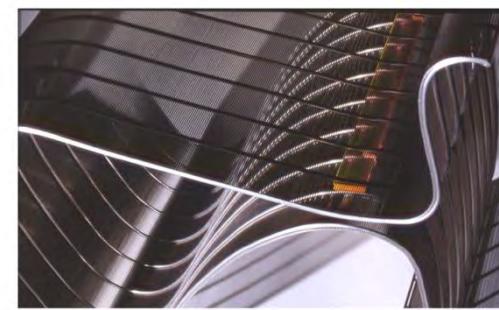
空間において、椅子が果たす役割は限りない。

建築空間の写真に意図的に配置された椅子がそのことを雄弁に語っている。

私たちは椅子が決定する人のしぐさを読み取り、居住者や建築家の存在まで感知する。

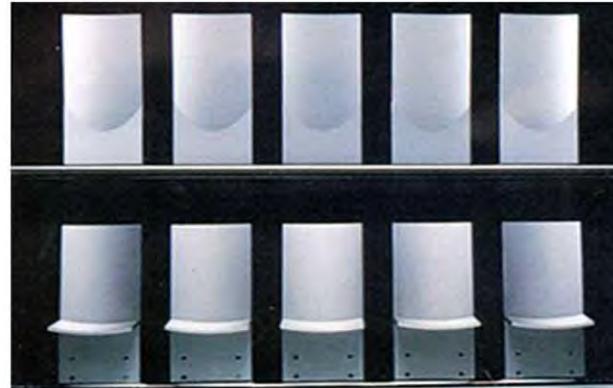
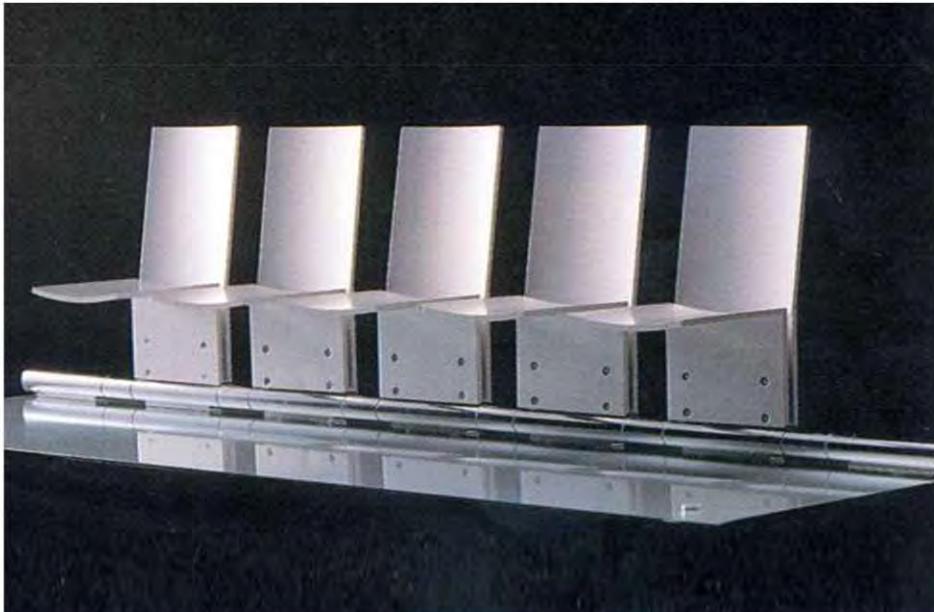
一方、空間の何者をも喚起しない椅子がある。多くの公共施設に見られる椅子である。

1983年に“公衆用の椅子試作品 I”を発表した。今回“試作品 II”として可能性を探る。

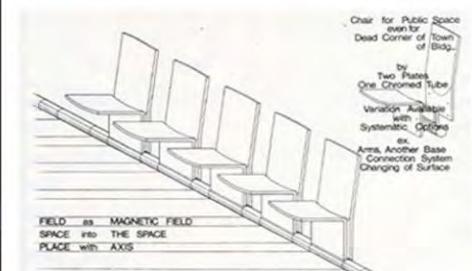
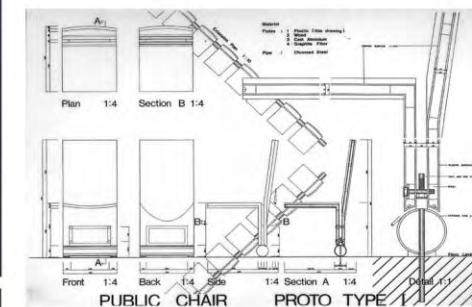
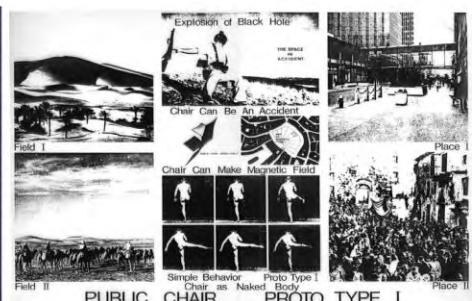
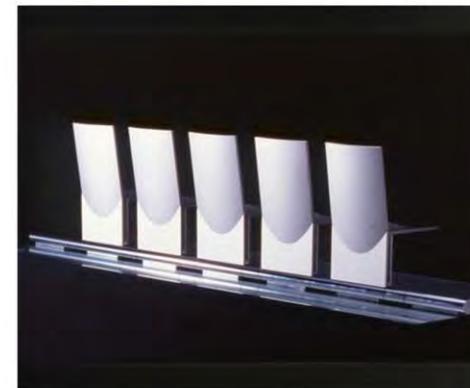


公共用椅子試作品 I

PUBLIC CHAIR PROTO TYPE I
(1988-1992 OSAKA)



この「公衆用の椅子」は、2枚の板と1本のスチールパイプとで構成され、これをつなぎ合せると何人でも座れるような椅子にすらることができる。日々通り過ぎる駅舎での電車待ちの時間。プラットフォームにあるものは、何一つ心に訴えかけてはくれない。地下街や街中のデッドスペース。そうした心のエアポケットを展開する場を人々に対して“用”を提供するこの椅子の設置によって、感動のある場に変換していきたいと考えた。“デザイン”が持つ機能性、構造性、言語性等のハードな“技術性”が内在化され、現実化されてくるとき、一見ソフトな“デザイン”は、単なる表面的な美しさを越えて、環境を切り開き、社会に対しすら関与できると考えている。



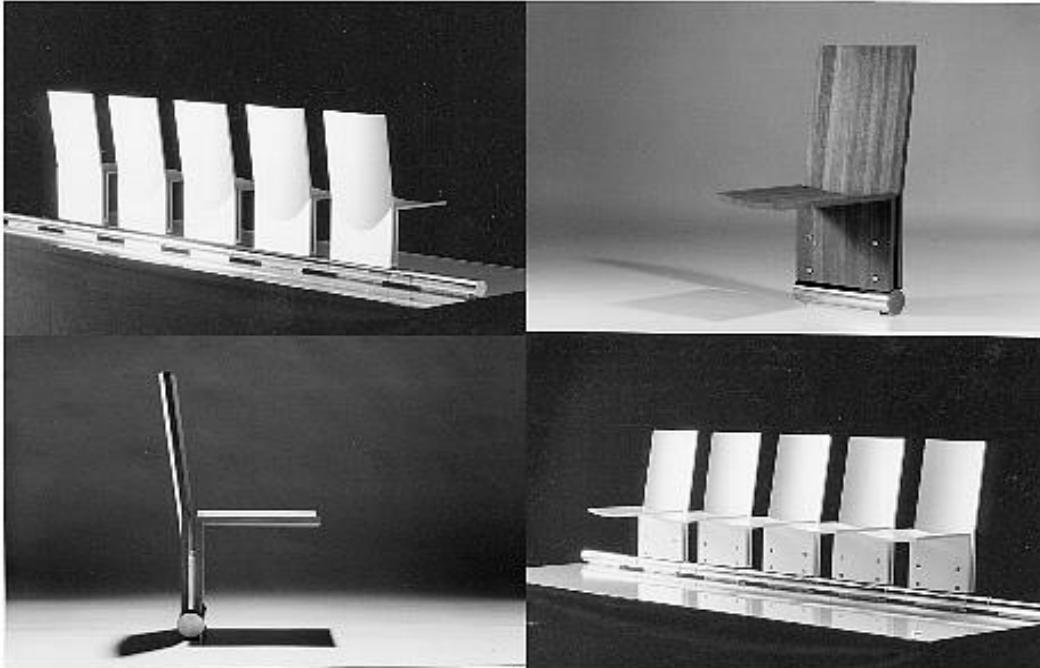
PRIZE

1ST INTERNATIONAL DESIGN COMPETITION (1983 Japan Design Fundation)

Public Chair Prototype 1
Toshiroh Ikegami Japan

Creative Concept

The Public Chair is composed of two plates and one Steel pipe. When these are joined together, the chair is capable of accommodating a limitless number of people. The curved surface of the plates makes it easier to install the public chair in places such as a station or street. The simple repeated formation of chairs transforms such a place into a new visual landscape.

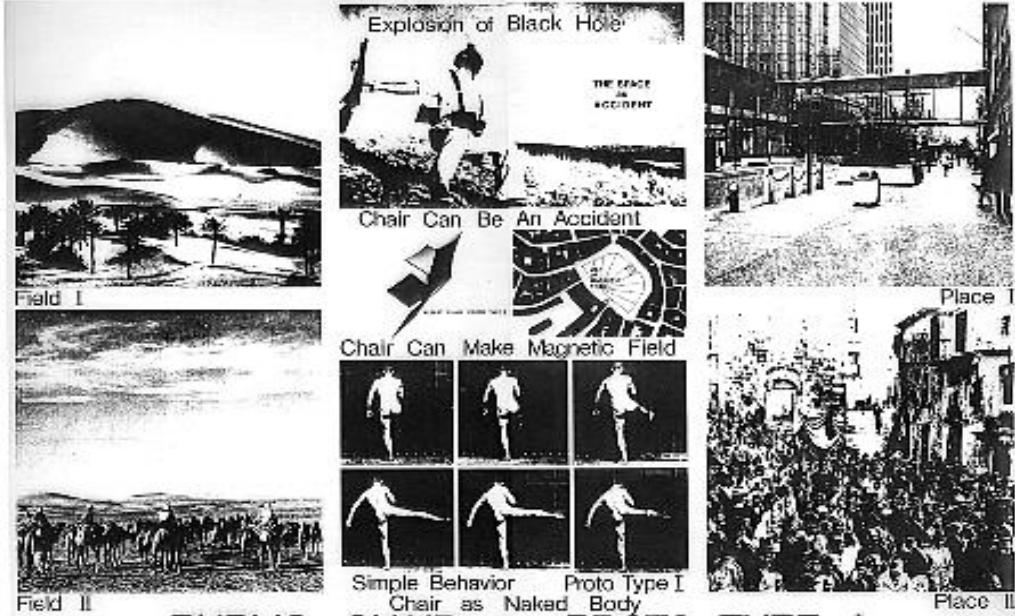


Comment of the Prize Winner

Now is the time for design again. All "objects related to us, human beings which have all their functions, positions, directions, sizes, structure, morphology, languages, etc., come to be engrossed with our spirit as an integration of multi-dimensional vectors. In a sense, even absence of objects may become "extinction". We are all surrounded by an affluence of material richness. But little of it is worthwhile, touching our hearts. The "Public chair - Prototype 1", chosen for this award, is really many chairs which can be joined together in a public place, accessible for an indefinite number of people. While waiting for our commuter trains at the station every day, nothing found on the platform appears in any way at all to stir our hearts. We see dead spaces on the streets or in underground shopping arcades. This public chair that I designed originated from my wish to convert these spots presenting air pockets in our hearts into places where there exists some emotion by means of something serving a purpose for people.

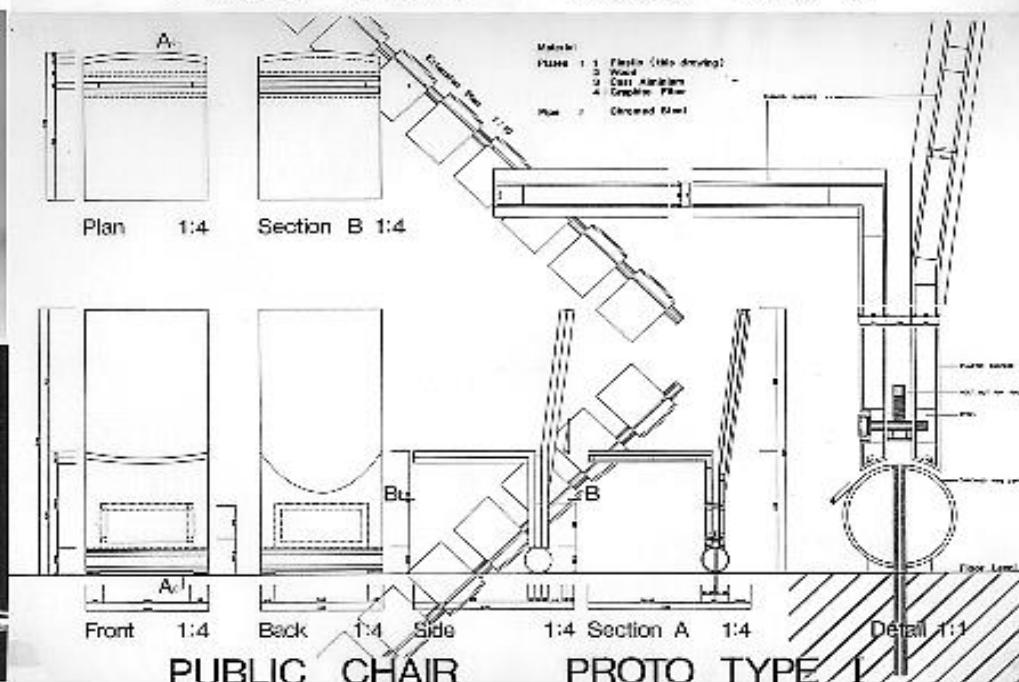
As the designs hardware aspect of "technicity", such as functionality, structure and linguistic element, become thinner, and realistic, the apparently software-like "design" I believe, opens up its own environment by surpassing its simply superficial beauty. Even being able to be engaged with society.

I am firmly convinced of the necessity of such designs today. I should like to continue creating sure things which have something to say to the human heart, staying free from the existing genres.

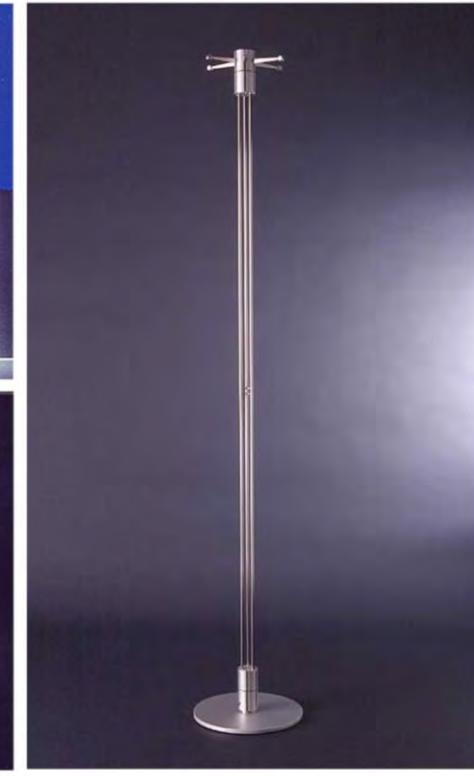
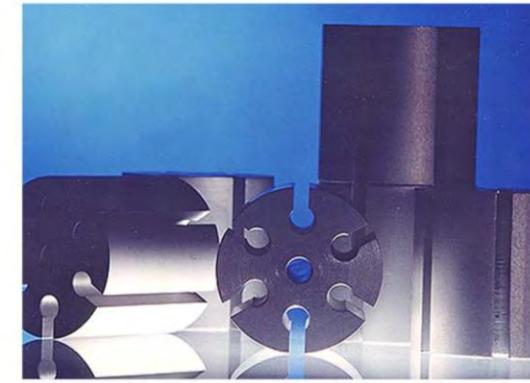
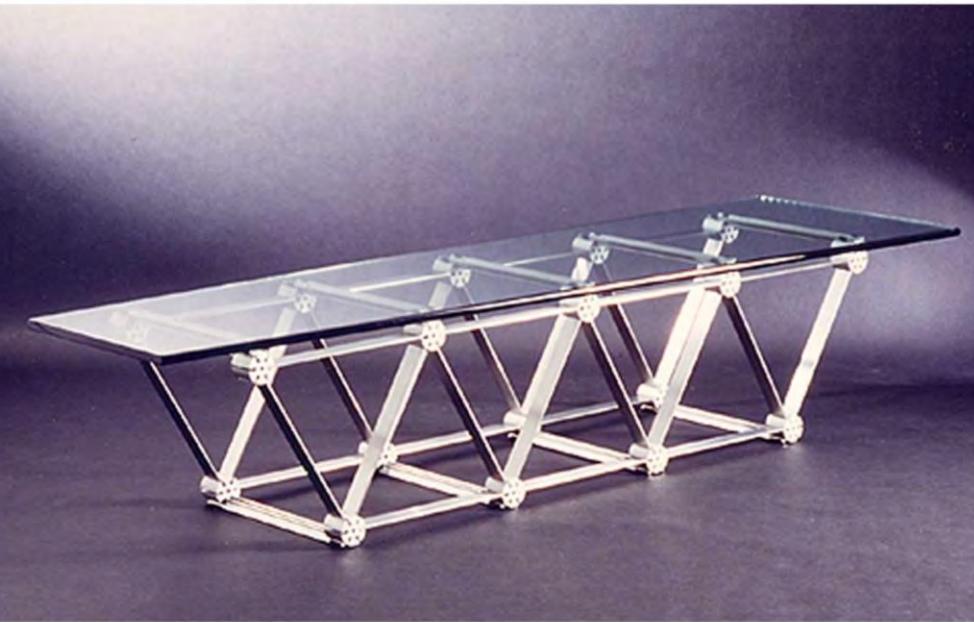


PUBLIC CHAIR

PROTO TYPE I



<Translator=翻訳者>と名付けられたジョイント部材は、様々な機能を解き翻訳し、必要なサブの部材とともに、より大きな空間を射程において形態化されていく。直径54mm、長さ54mmの小さなトランスレーターを出発点として、その60度の放射線上に空間が多様に展開しようとしている。いつか、建築が、都市が、同一の延長上に構成できないかと考えている。

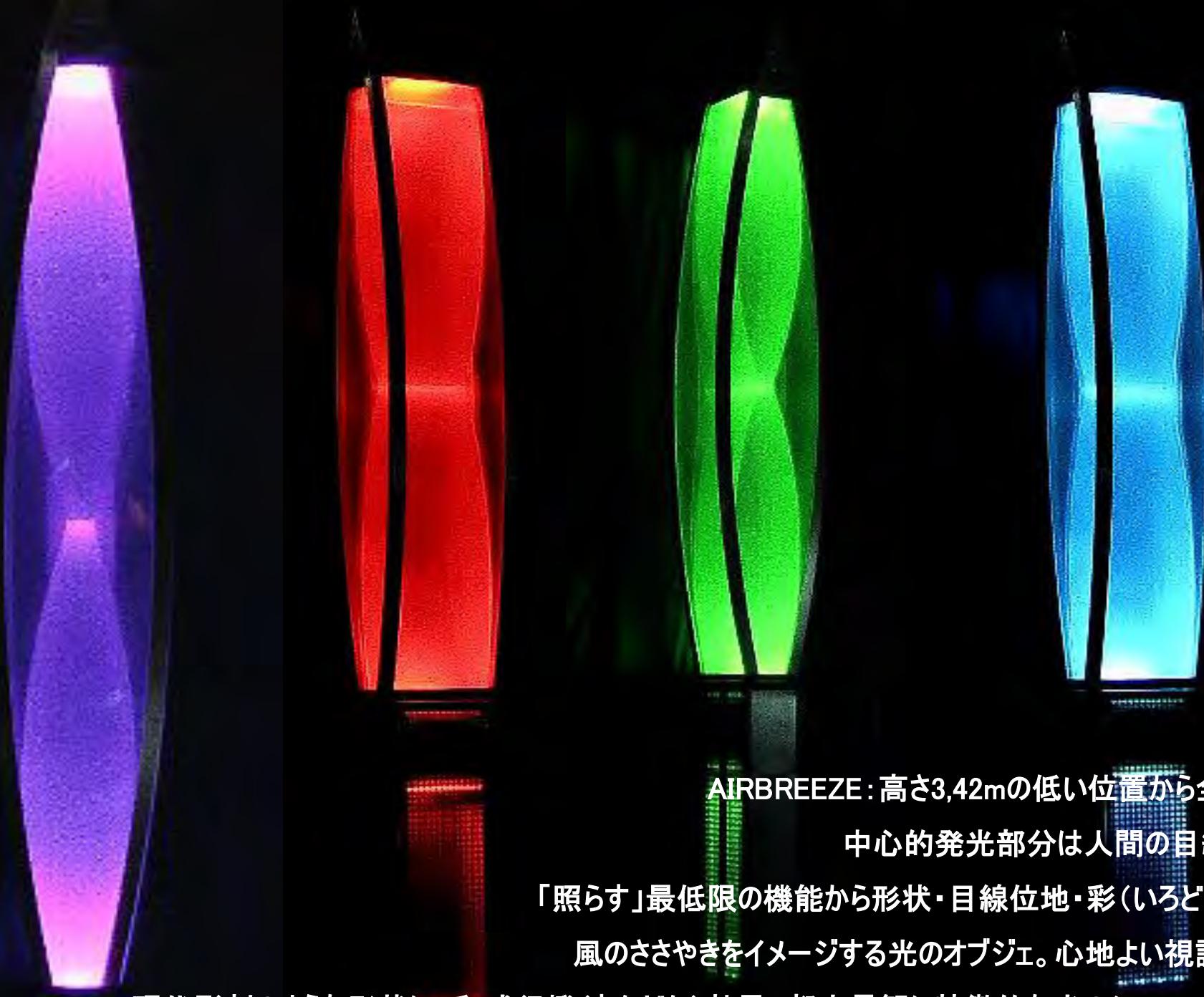




ECO MATERIAL 1

UNIQUE ECO MATERIAL
CREATES NEW DESIGN





AIRBREEZE: 高さ3,42mの低い位置から全体発光。

中心的発光部分は人間の目線の位置。

「照らす」最低限の機能から形状・目線位地・彩(いろどり)を生む。

風のささやきをイメージする光のオブジェ。心地よい視認性創造。

現代彫刻のような形状に、和式行燈(あんどん)効果。都市景観に特徴的な光のシンフォニー 創造。







見る角度により
異なる色彩。

40w蛍光灯2本
分の長さ2Mが、
6V 4.5W1灯で
光ります。

200M先の渡月
橋対岸より視認。



R A N 鶯

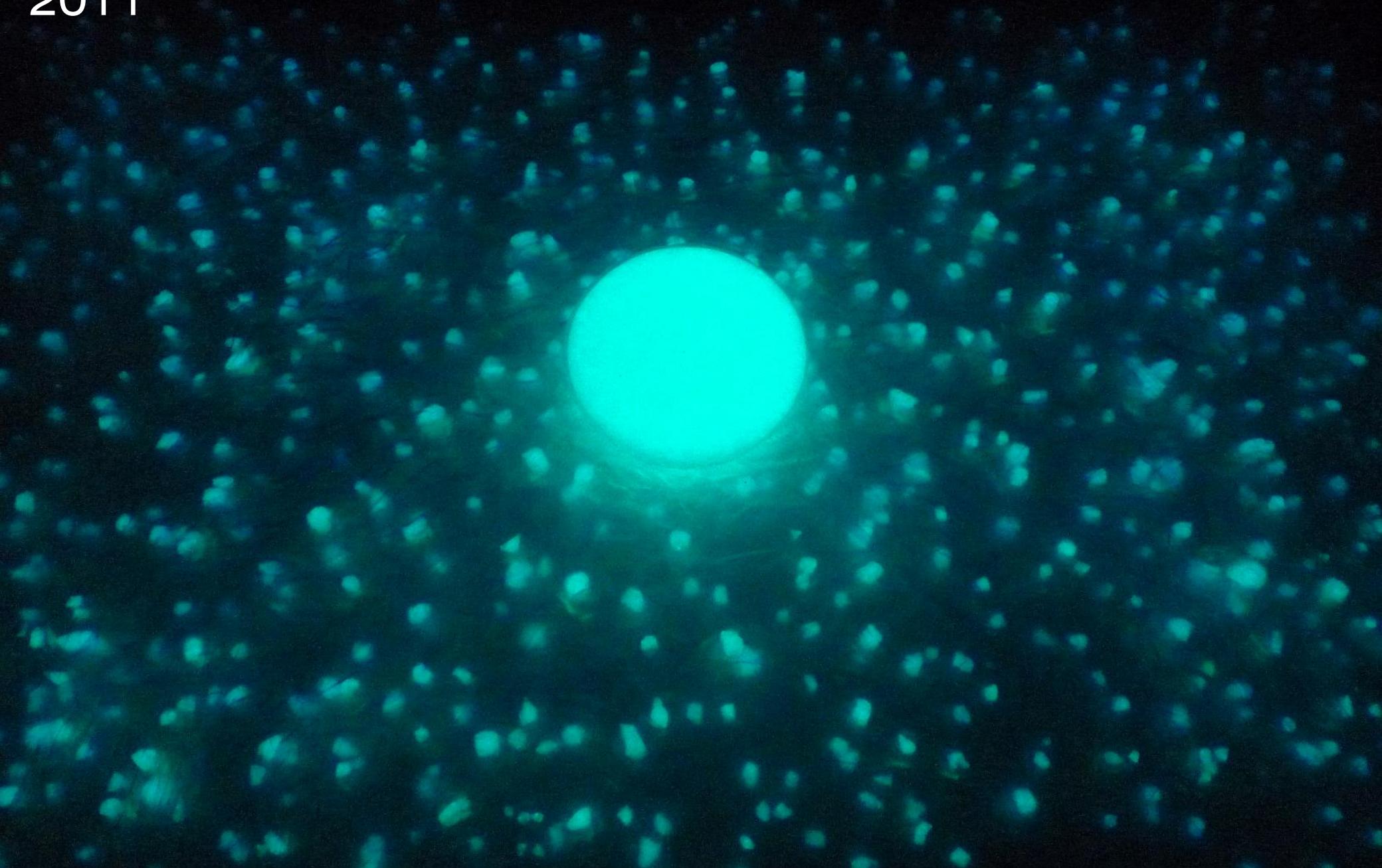
LED光源4.5Wで点灯、7灯全体でわずか30W強。見る角度により色彩が異なります。
生命体の機能を模したデザインなどに BIOMIMICRYという手法があります。玉虫の輝きです。環境負荷軽減照明を環境美学として嵐山華灯路2008に提案しました。

碧波 Blue Galaxy

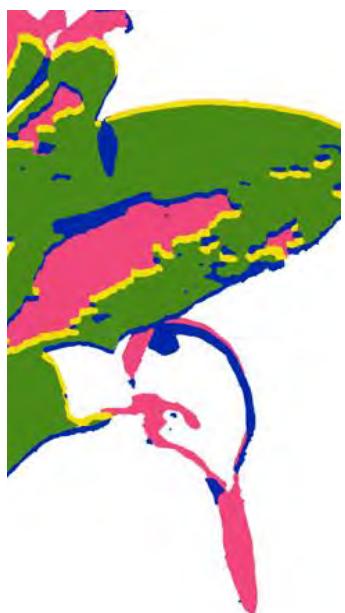
2011



碧波 Blue Galaxy
2011



Stage architecture



Graphic design scene
for
stage architecture



熱帶幻想 by HIKARI BABA

